

第1305回 高知市教育委員 8月臨時会 議事録

1 開催日 令和6年8月2日(金)

2 教育長開会宣言

3 議事

日程第1 会議録署名委員の指名について

日程第2 市教委第28号 令和7年度使用高知地区中・義務教育学校教科用図書(学校教育法附則第9条の規定に基づく一般図書を除く。)の採択について  
(継続審議)

4 出席者

(1) 教育委員会	1 番教育長	松 下 整
	2 番委員	谷 智 子
	3 番委員	西 森 やよい
	5 番委員	森 田 美 佐

(2) 事務局	教育次長	竹 内 清 貴
	教育次長	植 田 浩 二
	教育政策課長	岸 田 正 法
	学校教育課長	川 元 雅 一
	学校教育課学校教育班長	入 江 洋
	学校教育課学校教育班指導主事	馬 詰 敦
	学校教育課学校教育班指導主事	木 村 大 作
	学校教育課学校教育班指導主事	林 保 ひとみ
	学校教育課学校教育班指導主事	廣 瀬 友 樹
	教育政策課主査	四 國 真 衣

5 欠席者	4 番委員	野 並 誠 二
-------	-------	---------

1 令和6年8月2日（金） 午後2時30分～午後6時30分（たかじょう庁舎6階大会議室）

2 議事内容

開会 午後2時30分

**松下教育長**

ただいまから、第1305回高知市教育委員会8月臨時会を開会いたします。

日程第1，会議録署名委員の指名を行います。

会議録署名委員は、谷委員，お願いいたします。

**谷委員**

はい。

**松下教育長**

それでは、議案審査に移ります。本日の議案は1件です。

日程第2 市教委28号「令和7年度使用高知地区中・義務教育学校教科用図書（学校教育法附則第9条の規定に基づく一般図書を除く。）の採択について」の継続審議に入りたいと思います。この案件は、8月末までの間、時限秘の内容となっておりますので、前回の7月定例会での審議と同様に秘密会といたします。

なお、採決については、種目ごとに順次審議し、決定していくこととしたいと思いますが、構いませんでしょうか。

**委員一同**

————— 【異議なし】 —————

**松下教育長**

それでは、まず、国語について、説明をお願いいたします。

**学校教育課長**

国語から順に1種目ごとに全部で16種目説明させていただきたいと思います。説明をする際の各発行者の順番は、文部科学省が作成しました「中学校教科書目録」にあります発行者一覧の順に沿って、説明させていただきます。なお、それぞれの教科書には各社に共通する単元や教材を比較するため、色のついた付箋を貼っております。その付箋のうち、ピンク色の付箋につきましては、その教科書の特徴をお示ししております。説明の中では、出版社名を略称で説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、国語から順に担当から説明させていただきます。

**学校教育課馬詰指導主事**

それでは、国語から御説明いたします。国語は、4社のうち、東京書籍、教育出版、光村図書出版の3社が選定されております。

青色の各社の付箋のページをお開きください。古典の初めのページになります。各社とも掲載されている資料の一覧が載っております。

まず、東書を御覧いただきますと、いろは歌につきましては、掲載のみで詳しい説明はされておられません。ページをめくっていただきますと、掲載されている古典の教材の現代語訳は、上下で掲載されております。

次に、教出を御覧いただきますと、導入教材としましては、「昔話と古典 箱に入った桃太郎」が掲載されております。現代語訳については、東書と同じく上下に掲載されております。

光村を御覧いただきますと、「音読を楽しむ」という題名でいろは歌が掲載され、古典に言葉の響きや調子に触れる教材として扱われております。また、ページをめくっていただきますと現代語訳については、本文横に掲載され、他社とは違った掲載方法になっております。

次に、各社別の特徴でございますが、各社ピンク色の付箋で示しております。

まず、東書でございますが、「未来の扉」と題して、「未来を考えるための9つのテーマ」を設定しており、1年間の総まとめとして「多様性と共生社会」に結び付け、これまでに身につけた言葉の力を使って考えを深め、振り返ることができます。

次に、教出でございますが、1年生の24ページやいろんなところに、「学びナビ」という教材を読み深めていくための視点を、教材の前に示すことで、生徒は学びへの明確な目標を持って学習に取り組むことができるようになっております。

そして、光村でございますが、巻末に「語彙ブック」という資料において、自分の思いや考えを表現するために活用できる言葉が多数紹介されており、知っている言葉を使える言葉に育てるために、用例や使用場面が示されております。以上が、国語についての説明でございます。

#### **松下教育長**

この件について、質疑等はありませんか。

#### **森田委員**

光村さんのことで一つ伺わせてください。先ほど説明の中で、語彙ブックのことを聞かせていただきましたが現場の先生の「これが大事」や「授業で使っています」などの評判みたいなものがありますか。

#### **学校教育課馬詰指導主事**

はい。語彙ブックは、情景を表す言葉や心情を表す言葉などいろんな場面で表す言葉がたくさん載っておりますので、普段使うものとして、より効果的であると考えております。

#### **森田委員**

こういう言葉に触れて聞かないと話せませんよね。ありがとうございます。作文のときにも使えるのかなと思います。

#### **松下教育長**

自分の言葉を紡ぐに当たって、参考にするということなのでしょうね。

#### **谷委員**

光村の「学びのカギ」一覧で「説明的な文章を読むため」とか「文学的な文章を読むため」というように順にあります。こういうのはほかにもありますか。いろんな表現の仕方をするためのノウハウが載っていますがこういうのは活用できますね。ほかの教科書にはないですか。

#### **学校教育課馬詰指導主事**

「語彙ブック」のことですか。

#### **谷委員**

「語彙ブック」や「学びナビ」です。

#### **学校教育課馬詰指導主事**

「学びナビ」についてはあります。

#### **谷委員**

ほかにもありますね。教出にも理解に役立つ言葉とかがありますね。

#### **西森委員**

光村は、結構読ませる教科書になっている印象がありました。さっきの古典のところでも御説明いただきましたけれども、「かぐや姫」が156ページから始まりますが、とりあえず古文で読ませて、読むに当たっても隣に書かれているから集中力が切れないというか、行ったり来たりしない、下に分けられていたら、多分下の現代訳を読んでしまうだろうと思いました。ページ変わって158ペー

ジのところ、「5人の貴公子たち」で現代の言葉に変わって、すごく読みやすい印象がございました。

比較したら申し訳ないのですが、もう一つの教育出版の118ページ「竹取物語」の最初では、「物語は古くから多くの人に」と解説者の声が聞こえて、本文があって、その後、「翁はこの子を家に連れて帰り」というところも物語の続きというよりは、解説者が出てくるような感じで説明されている。教科書で文章を読ませるという意味では、国語らしいのは、光村かなと思いました。

さっきの「語彙ブック」ですけれど、おっしゃられたとおりで、やっぱり国語と言ったときに、語彙は外せないと思います。表現力がどうか、文章力がどうか言ってもやっぱり語彙の豊富さはすごく重要だと思っていて、そうすると光村の教科書の姿勢は読ませること、それから語彙を重要視することで、すごくオーソドックスのど真ん中を行っているという印象で拝見したところです。

教育出版は、私たちが尊敬する大谷みきこ先生という弁護士の方のお話が載っていて、そういうことについても取り上げていただけるのだなと思って、業界的には推しますが国語としての話とはまた別だと思っております。

あと東京書籍は、すごくカラフルだという印象があって、教科書をめくっていったときに全体的にカラーリングが多い気がしました。これは教える先生や生徒の反応という意味では、国語科だとカラーはどういうふうに捉えておられるのでしょうか。多い方がいいのか、邪魔なのかというところ です。

#### 松下教育長

声が聞こえておりましたら、お願いします。

#### 学校教育課馬詰指導主事

声は特には聞いておりませんが、落ち着いて教科書を読むという部分では、色合いよりも文字をという意見はありました。

#### 谷委員

3社見たときに、紙の色が東京書籍はどっちかという真っ白で、教出も割とそれに近いですが、もう一つの光村は、ちょっと色が落ち着いた感じ です。学習するのにずっと見ながらとなると、一番落ち着いて学べそうな感じはしますね。あんまり白すぎると目が痛くなります。

#### 松下教育長

御意見をいただきましたが、お聞きしておりますところ、3社のうち光村図書を挙げる声が多かったと思うのですが構いませんでしょうか。

#### 委員一同

————— 【異議なし】 —————

#### 松下教育長

それでは国語については、3社のうち光村図書出版で決定させていただきます。

続いて、書写の説明をお願いします。

#### 学校教育課馬詰指導主事

続いて、書写です。書写は、4社のうち、東京書籍、教育出版、光村図書出版の3社が選定されております。

黄色の各社の付箋のページをお開きください。各社とも「手紙の書き方」について説明されたページでございます。縦書き、横書き、封筒への書き方など詳しく説明されております。

まず、東書を御覧いただきますと、106ページ「書写活用ブック」に縦書きのお礼状の例が大きく示されております。

次に、教出を御覧いただきますと、一筆箋の書き方の例が109ページの左上に示されております。

光村を御覧いただきますと、縦書きと横書きを見開き2ページで同じ大ききで示されております。また、116ページには「タッチペンでの署名」、117ページには、「デジタル付箋」も示されております。

次に、各社別の特徴でございますが、各社ピンク色の付箋のページを御覧ください。

まず、東書でございますが、「身の回りの文字の目的と工夫」という特集ページにおいて、生徒に身の回りの文字に興味を持たせるような工夫とともに、書写の学びを日常の文字と関連付けるような工夫がされております。

次に、教出を御覧いただきますと、コラムにおいて日本建築と「書」ということで、発展的な内容になりますが、高校の書道につながるような内容が掲載されており、進学後の教科との関連付けになっております。

そして、光村でございますが、切り離して使用することができる「書写ブック」がつけられており、自主的に学んだことの復習ができるようになっております。書写の学習で身につけた力を他教科や日常生活でいかし、家庭学習等でも使用できるものになっています。以上が、書写についての説明でございます。

#### **松下教育長**

質疑ありましたらお願いします。

#### **森田委員**

はい。ありがとうございます。光村さんでは、「書写ブック」が切り離せるとありますがやっぱりそれが特徴でしょうか。確認ですが、ほかにはそれがないということなのかどうかということと、これが授業中に切り離して使うことができるのか、宿題として持って帰ってやりなさいというものなのか、もしそれができのだったら先生方が別の宿題を作らなくてもいいのではないのかなと思ったりしましたがいかがでしょうか。

#### **学校教育課馬詰指導主事**

切り離すことによって家庭学習でも利用できるという部分で、評価をいただいております。

#### **森田委員**

あともう一つだけいいですか。光村さんでは、書き方の中でタッチペンのこととかが今どきのよさな気がしました。私が見た印象では、タッチペンとか現代的な書き方の話があったりとか、光村さんのところで見開きで「手書きのよさって、何だろう」というのがあったり、興味が湧くのではないかと思いました。

#### **学校教育課馬詰指導主事**

現代の子供たちは、書くこと自体が苦手な面がありますので、手書きの良さを伝えるというところでは、一定の評価があると思います。タッチペンについても、最近はタッチペンでサインするような場面もいろんなお店でありますので、そういったところの書くイメージや書く場所といったのが示されていることが工夫されているのかなというところです。また、デジタル付箋について掲載されていると思いますけれども、授業の中で授業支援アプリなどを使ったときの見せ方というのはいいのではないかと思います。

#### **松下教育長**

光村以外の教科書ではどうでしょうか。

#### **西森委員**

若干特徴的だと思ったのが教育出版です。教育出版の後ろのほうの121ページ、漢字の書き方のページですけど、部首別になっています。ほかの教科書は、東京書籍が「書写活用ブック」の中に、光村のも後ろに載っていますけど、どちらも50音順で載っています。探しやすいか探しにくいかで言えば、50音順のほうが圧倒的に探しやすい。ただ部首というのはなかなかこういう機会にやらないと勉強する機会がなくて、意外な部首とかもあったりするので、そういう意味では勉強させようという意欲があるのが教育出版かなと感じました。ただ、さっきから出ているようにこの書写の教科書は、家庭科と一緒に、捨てずに一生持っていてほしい教科書になってきたのかなという印象があります。光村さんの書く練習については、「書写ブック」で分けるというふうにごく合理的にドリルのようにしてあって、それ以外のところは、さっきのタッチペンの使い方のところとか、

今まで学んだこともないのですけれどもこんなお作法があったのかというようなこととか、デジタル付箋に至っては、授業支援アプリって私たちは使ったことがないので、そもそもこれが何のために必要なのか分かっていませんでしたが、今の子どもたちにとっては必要なお作法なのですね。タッチペンの上のメールの書き方とかも習ったこともないまま一生懸命実務でやってきましたけども、しばらく持ち歩けるし、大学に行っても社会人になってもしばらくこれで確認できるようなものになっているというのがこの光村さんの特徴だと思います。

教育出版は勉強させる気にはなるけど、持ち運んで大学や社会人まで使えるかというところちょっとそうではないのかなという印象、東京書籍も似たような印象と捉えさせていただきました。

**谷委員**

授業支援アプリはどこにありますか。何ページですか。

**松下教育長**

117ページです。デジタル付箋はまさに子供たちが毎日使っています。

**谷委員**

GIGAスクールでありますよね。

**松下教育長**

先生とのやり取りで使っています。

**西森委員**

私なんかはたぶんデジタル付箋を一生使うことがないかもしれないですけど、必要な視点ですね。

**松下教育長**

書写について、光村を評価する声が多く上がりましたが構いませんか。

**委員一同**

————— 【異議なし】 —————

**松下教育長**

それでは書写については、光村図書出版とさせていただきます。

社会（地理的分野）について、説明をお願いします。

**学校教育課馬詰指導主事**

続いて、社会（地理的分野）です。地理は4社のうち、東京書籍、教育出版、帝国書院の3社が選定されております。

黄色の各社の付箋のページを御覧ください。日本の各地方の特色を学習するページの中でも中国・四国地方の初めのページになります。3社とも各県の写真などを載せ、導入で使用することで、その地方の概要をつかむとともに、興味を持たせる工夫がされております。

まず、東書を御覧ください。東書は片側1ページになりますが、交通や通信の発達による人々の暮らしや産業の変化を学習していくことが確認できる内容となっております。

次に、教出を御覧いただきますと、見開き2ページで各県の写真が掲載され、高知市の複合施設でありますオーテピアの写真が提示されております。

そして、帝国を御覧ください。片側1ページにイラスト地図から地域を概観でき、写真のようなイラストから位置関係が分かるようになっております。また、次のページは見開き2ページで各県の写真が掲載され、高知市の海岸に広がるビニールハウスの写真が提示されております。

次に、各社別の特徴でございますが、各社ピンク色の付箋をお開きください。

まず、東書でございますが、学習課題、本文、資料、チェック&トライ等、紙面の要素を定位置に配置し、1時間の学習の流れを分かりやすくデザインされております。

次に、教出でございますが、教科書の中央ほどに折り込みで宇宙から見た日本の写真が載せてあり、昔の地図との比較など、地図から考え、表現し合う学習につなげることができるような工夫がされております。

そして、帝国でございますが、地理的な見方・考え方を働かせ、気候帯ごとの比較による変化や関連性を捉えられるように導入写真や分布図、衣食住の写真等の位置を固定化する工夫がされています。以上が、地理的分野についての説明になります。

**松下教育長**

質疑をお願いします。

**西森委員**

帝国書院のところから触れたいと思います。138ページの黄色の付箋があったところですが、この示し方がすごく良いと感じています。やっぱり地理であり地図なので、今自分たちがどこを旅行しているのかが分からないまま学ぶと、ただの暗記科目になるんですね。割と大きくなってから勉強した人の話を聞いても、地理は暗記だからつまらなかったという話がありました。大人になってから考えると、実はすごくダイナミックな科目ですよ。いろんなものに影響されて、産業がどう発展するかとか、そういう面白さみたいなのは、やっぱり頭の中で地図をしっかりと入れて、自分が今どこの話をしている、ここが谷なのか、山なのか分かっていないとできない話だと思っており、こういう見せ方をしてくれると有り難いと思いました。ほかの教科書もそういう工夫はされているのだろうと思いますが、どうしても上から地図を見て、文章を読んで、頭の中で書かれていることと場所がリンクしないまま進んでいって、暗記になってしまうという印象が今のところまだ強いという感じを持っています。その点、帝国のこの示し方がすごく好きではあります。先ほど言われていましたビニールハウスのチョイスも、185ページのこんなになっているんだと思いました。高知県と言うと割と定番に桂浜を出してみたりするのではなくて、こういう産業とのリンクの仕方のような見せ方もすごいと地元の間も感動いたしました。

それから教育出版の234ページですけど、これはもう仕方ないのですか。引っかけたのが「日本の中心的な地域関東地方」とこういう書き方なんですよ。「中心」と言われると確かに地理的に見たら中心かもしれない、端から端まで見ると真ん中辺りかもしれない。また、「中・四国の中心広島」と書かれているところもあったので、地理というのは、中心とか端っこなど言いたい科目なのでしょうか。地理の学習の学習指導要領でこういう表現なのだと言われたらそれまでなのですが、その辺りはいかがでしょうか。

**松下教育長**

分かることがありましたら、お願いします。

**西森委員**

「中心」と教えていますか。

**学校教育課馬詰指導主事**

それぞれの見方でそういった形で捉える方はおられると思いますが、学習指導要領では特にありません。

**西森委員**

ないですよ。

**松下教育長**

次のページのように「日本の首都」と言われたら分かりますが、「中心的な地域」と言うところがありますね。

**西森委員**

真面目な子供たちは全部暗記するんですよ。そういう意味では、そこでこの言葉が正解だというふうに刷り込まれるんです。やっぱりそういうところは、すごく気を付けてほしいなと思います。ちなみに、東京書籍の233ページで「関東地方をながめて」、「世界や日本と結び付く東京」とか「通勤・通学東京大都市圏」「人やモノが集まる大消費地の関東地方」など、ある程度客観的な事実で記述されていると思うんですよ。「中心的な地域関東地方」これが地理学者さんの一つの見方な

のだったらそれはそれなのですけど、使わなくていい言葉なら使わなくていいのではないかなと思います。

**松下教育長**

ほかにありましたらお願いします。

**谷委員**

このSDG sというのは全部の教科書にありますか。

**松下教育長**

示している教科書、示していない教科書がありますか。

**学校教育課馬詰指導主事**

基本的に全ての教科書でSDG sについて、触れられています。

**谷委員**

教出の最後のほうに、「アイヌ民族の文化から学ぶ持続可能な社会づくりの視点から」ということで「SDG sの16」,「平和と公正をすべての人に」という言葉があります。今後どんどんこれが出てくると思うので、そのときに意識していくという意味で、こういう表記いいなと思って見たのですが、ほかのところは例えばどこにありますか。

**学校教育課馬詰指導主事**

東京書籍で申しますと271ページに「SDG sを振り返ろう」というものが載っています。

**谷委員**

全部が載っているわけですね。もう一つのほうはどこに載っていますか。

**学校教育課馬詰指導主事**

帝国書院は、表紙を開いたところです。

**谷委員**

こういうのがあればいいですね。

**学校教育課馬詰指導主事**

基本的には、SDG sに関しては地理だけに限ったものではなくて、ほかの教科でも触れられているものではありません。

**松下教育長**

今のSDG sの観点で言うと、帝国書院が一番に、最初の左のところへまとめて出しているということですね。

**谷委員**

東書は写真がきれいなものがあるけれど、そんなにないのでしょか。帝国書院は、最初に紹介されていますね。教出も最初にされていますね。ところどころ見ていくと、それがこういうところに視点としてあるのだよというのが出てきています。今後大事だという気はします。

**森田委員**

SDG sは、ほぼ全ての教科書にあるということを教えていただきました。私の意見ですけど、教育出版さんのSDG sが巻頭2ページのところにあるのですが、結構知っているところだからここまで書かなくても、それより地理の教科書なので、巻頭2ページの上にある地理的な見方・考え方というところを私たちがこれから勉強するというところのほうが大事なのではないかと思ったときに、帝国書院は、巻頭8ページのところに、何で私たちは勉強をして、どんな見方・考え方をしていくのかというのを1ページにわたってばっちり色分けして示してしているところが、私は評価できると思いました。帝国書院さんの8ページのところは、これを勉強すると場所が分かる、ほかの地域との結び付きが分かる、地域の特徴が分かる、人間と自然の関わりが分かる、地理と分布が分かる、分かっただけではなくて、漫画になっていて、そういうことが分かるとこんな会話が出来ますとなっているところが中学生に分かりやすいと思ったことと、最後は、先ほど御説明いただいた中で、衣食住の写真の位置を固定化してあって、要するに生活を勉強することで地理と



衣食住の生活とどう結び付くかを姿勢として見せているのが帝国書院さんで、身近に感じやすいのと思いました。帝国書院さんで私はいいかなと思いました。迷っているところは、東京書籍さんが見開き1ページで世界の食事が見えるのでおいしそうだと思って、これとどっちがいいかなと思ったりしました。

#### 松下教育長

今出た意見では、帝国書院が地理としては良いのではないだろうかという御意見でしたが構いませんでしょうか。それでは社会地理的分野は帝国書院と決定してよろしいでしょうか。

#### 委員一同

————— 【異議なし】 —————

#### 松下教育長

社会地理的分野は帝国書院で決定させていただきます。歴史について、説明をお願いします。

#### 学校教育課馬詰指導主事

続いて、社会（歴史的分野）です。歴史は、9社のうち、東京書籍、教育出版、帝国書院の3社が選定されております。

オレンジ色の付箋がついた各社のページをお開きください。各社とも小学校での学習を振り返るために写真やイラストを使用し、人物と時代の流れを関連付け、歴史の大きな流れをたどる内容となっております。

東書を御覧いただきますと、右上からスタートし、人物や建造物などのイラストを使用し、歴史の流れを示しております。

次に、教出を御覧いただきますと、ゲーム感覚で楽しみながら、小学校での学習を振り返っております。また、歴史人物クロスワードパズルも準備されております。

そして、帝国は左上からスタートし、人物や出来事のイラストを使用し、小学校の学習の振り返りができるようになっております。

次に、各社別の特徴でございますが、各社ピンク色の付箋のページをお開きください。

まず、東書でございますが「もっと知りたい！」が教科書の数か所に準備されており、詳しい資料の追加とその出来事や事象に対して、深く知り、考えることができるように工夫されております。

次に、教出でございますが、章の導入部分である、章の初めのページにおいて「学習のはじめに」が準備され、大きな写真や資料から今後の学習の見通しと生徒の興味を高めるように工夫がされております。

そして帝国でございますが、歴史的な見方・考え方を、例を用いて紹介しています。また、「見方・考え方アイコン」を26ページや114ページの「タイムトラベル」等に設け、生徒の思考力を養う工夫がされております。以上が、歴史についての説明でございます。

#### 松下教育長

質疑をお願いします。

#### 谷委員

坂本龍馬はどこに掲載されていますか。

#### 学校教育課馬詰指導主事

東京書籍は162ページ、教出が161ページ、帝国が183ページです。坂本龍馬に関しましては、教育出版の164ページの下にピンク色で囲んだところに「龍馬の思い」が載っています。

#### 谷委員

八策も出ています。実際に撮った龍馬の写真が161ページにあります。龍馬記念館などにもある写真ですよ。子供たちにとっては龍馬と言えば土佐の偉人でもあるし、ある程度取り上げられている教科書がいいと思います。

## 西森委員

単に3社の比較で申しますと、地図は位置が大事なのですが、歴史だと時間的位置がどこなのかというのが大事で、縦軸で表そうとしているのが東京書籍と帝国書院で、教科書の右側を見れば常に今、自分がどこにいるのか分かるようになっていきます。教育出版は、その位置付けを真ん中のタイトルに持ってきています。まず、その横か縦かの見せ方が違う、単に好みの問題でしょうけど、私は右端にあって、常に今ここと分かるほうが見やすいという気がしています。好みの問題だと思います。

タイトルの付け方が東京書籍から言うと、166ページを見ると、「新政府の成立」というタイトルに「近代国家へ向けてのスタート」という肩書を付けていまして、こういうのは面白いと感じます。歴史にバイアスかかってしまうと時に危険なんでしょうけど、二つ書いてあります。教育出版は、同じような場所については、160ページで「新たな政権を目指して攘夷から倒幕へ」とありまして、162ページには「御政事売り切れ申し候」というように、当時言われた言葉なのでしょうけど、「幕府の滅亡」とかそういうのではなくて、166ページでは「万機公論に決すべし」というような教育出版のタイトルは毎回面白いと思いました。東京書籍は、先ほど申し上げたような定番なのだけ小見出しを付けてそこを補っているのかなと思いました。帝国書院は、割と従来型の真面目なタイトルの付け方をしているのかなという印象です。タイトルの付け方は、どこら辺りが先生方として付けやすいのか、あるいは生徒が教科書で学んで覚えていくときにいいのかということをおもったりします。教育出版のほうがタイトルを覚えれば知識に直結する形になっていると思います。

もう一つ関心があるのが、学習課題ですけど、同じ辺りでいうと東京書籍の166ページ辺りの「新政府の成立で明治維新によって社会はどのように変化していったのでしょうか」という問いになっています。教育出版の166ページでは、「新政府は、江戸時代の政治や社会のしくみを、どのように変革していったのでしょうか」となっていて、帝国書院は、186ページで「新政府は、どのような国づくりを目指したのだろうか」と、それぞれ主語が違います。まず、東京書籍は、「社会」が主語になっていて、教育出版と帝国書院は「新政府」が主語なのです。ただ、帝国書院は「どのような国づくりを目指したのだろうか」という新政府における動機というかそういうものを主観に置かれていて、教育出版は、新政府が何をしたかというところに置かれている問いになっています。ここからは、判断が難しいのでお聞きしたいと思いますが、現代流でいうとどっちのほうがより考えさせる内容になっている問いでしょうか。私たちが子供のときも記述問題と言われるものはありませんでしたが、実際は知識問題でした。「どのようにしましたか」と聞かれて、「これとこれをしました」と知識を書けば丸がつく、そうではなくて、自分たちで話し合っただけで考えなきゃいけないという意味では、何となく教育出版はどっちかという知識的かなと、「どのように変革をしていったか」、「こういう政策を打って、そういうふうにしていったか」と書ける内容になっていて、良くも悪くも知識もちゃんと定着するし、考え方もしっかりするでしょうと思います。みんなで共同学習するなら帝国書院の「どのような国づくりを目指したのだろうか」のほうが議論になるような気はします。使いやすいか、ある意味高度すぎるかもしれないとも思います。この辺りはどういうふうに捉えていったらいいでしょうか。

## 松下教育長

個人的な意見ではなく、声が聞こえていたら教えてください。

## 学校教育課馬詰指導主事

特に声は聞こえてはいないです。

## 西森委員

東京書籍の「明治維新によって、社会はどのように変化していったのでしょうか」というこれは、なかなか難しい問いですね。学者先生はこのことだけで一生かけて論文が書ける、研究できる内容なのではないかと思います。

**谷委員**

見出しが面白いですね。興味深い感じがします。

**西森委員**

教育出版のいいところはそこだと思います。この学習課題の立て方が三者三様で出てきたので、これから探究学習とかアクティブラーニングをやっていく上で、あんまり高度すぎると授業中収まりがつかなくなるとも思います。

**松下教育長**

道筋をやっぱり立ててあげないと、という部分ですね。

**西森委員**

でもやっぱり中途半端な知識で答えられるレベルでは、留めたくないですね。

**松下教育長**

難しいですね。

**西森委員**

「どのような国づくりを」という問いだったときには、いわゆる知識偏差値が高い子ではなくても一緒に議論できるような気がするんですよね。

**谷委員**

興味持ってね。いいじゃないですか。

**西森委員**

問いの立て方は、私は帝国書院がいいと思います。教育出版は面白いと思います。これまでの継続性という観点でどう考えるかなど。

**松下教育長**

言えることがありましたらお願いします。

**学校教育課馬詰指導主事**

学習課題の部分について言われていたと思うのですが、学習課題に対して、教出に関しては、確認、学習を振り返って整理するステップと、表現、学習内容を自分の言葉で説明したり会話したりすることで深い学びにつなげるステップの2段階の問いで学習を振り返って、基礎基本の確実な定着を支援する構成になっているのではないかと思います。

**西森委員**

帝国はどうですか。帝国のこの学習課題の問いかけ、全部のページで貫かれているわけでもないですけど、割とオープンな問いが多いような感じがします。

**谷委員**

思考・判断・表現という深い学びをしていくことを、十分でない子供たちにも分かるようにしていくには、教出のほうがいいような気がしますね。

**松下教育長**

授業で配って探究していくっていうことであれば、という御意見ですか。

**谷委員**

社会科の授業も変わっていていますからね。

**松下教育長**

教育出版を評価する声が大きいです構いませんか。社会（歴史的分野）については、教育出版で決定してよろしいでしょうか。

**委員一同**

————— 【異議なし】 —————

**松下教育長**

それでは、社会（歴史的分野）については、教育出版で決定させていただきます。続いて、社会（公民的分野）について、説明をお願いします。

## 学校教育課馬詰指導主事

続いて、社会（公民的分野）です。公民は、6社のうち、教育出版、帝国書院、日本文教出版の3社が選定されております。

黄色の各社の付箋のページをお開きください。持続可能な未来を創るための視点として、国連で採択されたSDGsに関するページになります。

まず、教出を御覧いただきますと、「私の提案」ということで、振り返りのイメージを生徒に持たせ、学習に取り組めるような工夫がされております。また、自分たちに何が必要か考えさせるトピックスも掲載されています。

次に、帝国を御覧ください。学習してきた内容の実践ということで、探究学習への準備のページになっております。また、「NEXT2030へのヒント」が掲載されております。

そして、日文を御覧ください。国際社会の課題について、日本の社会はどのように取り組んでいるかを二つ示しております。また、グループで日本の達成度が低い目標から課題の一つを選び、解決策を考える構成になっております。

次に、各社別の特徴でございますが、ピンク色の付箋のページをお開きください。

まず、教出でございますが、「公民の技」というコーナーを設け、個人やグループの活動を通じて、公民の学習で身に付けさせたい技能や表現力を養い、活用できる工夫がされております。なお、「公民の技」を掲載した全てのページでQRコードから関連する内容の動画を見て、理解を深められるようになっております。

次に、帝国でございますが、「アクティブ公民」という活動の場面を設定し、社会に見られる課題の解決に向けて、公正な判断をする力を養うことができるようになっております。

そして、日文でございますが、具体的な事例を紹介したコラム「公民プラスα」を設け、生徒に身近で話題性のある事例等を取り上げ、生活と学習を関連させる工夫がされております。以上が、公民についての説明でございます。

## 松下教育長

質疑をお願いします。

## 谷委員

教育出版の50ページに「文字を始めて覚えた、高知県のある女性の詩」というのが出ておまして、よく「夕焼けが美しい」というのをやっているじゃないですか。けどそれではなくて、ほかのところはこういうのはありますか。識字のすごく大事な部分だと思います。

## 学校教育課馬詰指導主事

今おっしゃられた教育出版の「差別をしない、させない」というページと、ほかの他社のページを比較する場合、帝国書院が48ページ、日文が52ページになるかと思っております。

## 谷委員

全然違いますよね。人権教育は基本の根本にないといけないものです。高知市がこれまでずっと人権教育をやってきて、すごく重い教育として、大事にしてきたものなので、高知市の先生方が授業するとしたらという観点から見たときに、この教出の人権教育の分野はすごく重圧なのですよね。先ほど言った、「文字をしらないことは生きていくいみがない」という詩から始まって、LGBTQで、これも高知市が「にじいろのまち」というキャッチフレーズで打ち出していますよね。そういうものと重ねたときに、高知市がどういう方向でいっているかということを高知市の子供たちに非常に重要だと思います。ものすごい人権のことを載せていますね。

それから70ページには、人工知能AIの発達と人権とありますが、私は初めて知りましたが、AIとの関わりについては、ほかのところにはあるのでしょうか。AIによる採用試験とか書いています。時代が変わってきていますね。AIの問題もあるということですよね。間違いが書いているなど色々あるのでしょうか。そういうのを含めて、こういうのが出てきているっていうのはいいと思いますね。

## 松下教育長

教育出版の人権に関わるどころ、ここが高知市の子供たちに授業するにはいいのではないかと  
いう御意見でした。

## 西森委員

同じく私も人権のところを中心に見たのですが、やっぱり教育出版の人権は、私が上から言う  
のはおかしいですが、よく書けていると思います。ちょっと面白いと思ったのは、48 ページで「生  
命の大切さ」から入るといこういう考え方は、私はあんまり接してこなかったというか、「誰も  
がかけがえのない存在で尊重され、等しく扱われるべき。その根底には生命の大切さです。」とい  
う、これは一つの説としてはそうなのでしょうけど、若干独特という感じが実はしています。ただ、  
全然間違いではないと思います。個人の尊重と幸福追求権ということで、49 ページでは、上から何  
行目かに太字で幸福追求権のことについて書かれているのですが、司法関係者が一番重視するのは、  
第 13 条の幸福追求権のところですよ。それがぼやっと個人の尊重とか基本的人権とかという言葉で  
はなく、幸福追求権という言葉が明確に書かれています。これは、ほかの教科書も見ただけ  
で、言及はされていたりされてなかったりして、日文はたぶんされていなかった気がしているとい  
う意味では、大事なところを教育出版は、抑えていると思いました。ただ、実はこの 3 社の中で弁  
護士が執筆者に入ったのは、帝国書院だけなのですが、やっぱり読んだら分かるというか、読ん  
でこれ弁護士が入っているかなと思って後ろを見たら、やっぱり入っていました。帝国書院の独特  
さというのは、32 ページにあるのですが、いきなり「国家権力とは」から入るんですよ。つまり  
人権というのは、結局、国家権力と対峙してきた歴史があるということで、そうじゃないと今、私  
たちみたいに日本国憲法の中で生きてると人権があるっていうのが普通でスタートしてくるので、  
誰が敵なのかということがよく分かっていなかったりするのですが、明確に国家権力から定  
義していくと人権というものがすごく分かりやすくなる場所があると思っています。こういうの  
に触れるというのが帝国書院はなかなか攻めているなど、弁護士を入れているというのもあって、  
人権についての書き方が結構厚くて、44 ページの「個人の尊重とは」という辺りになってくるので  
す。すごく熱意を持って書かれているのは間違いありません。ただ、幸福追求権という言葉がズバリ  
出ているかというところどこかに触れられているかもしれないですけど、さっきの教育出版のような出  
し方じゃないというところはあると思います。申し訳ないですが、日文に関しては、定番で  
歴史の知識として習ったことをだだららと書いているだけで、人権についてははっきり言って記述  
が薄いというのが私の印象でした。

## 谷委員

今、西森さんが言ったのを聞いて、幸福追求権、すごいですね。今、ウェルビーイングとすごく  
言われています。みんなが、子供の幸せもそうだし、教師の幸せも大事でどうしたら幸せになって  
いくかというのを、社会科の教科書にこうやって出ていることはすごくいいと思います。

## 西森委員

ぼやっとした人権を大事にしようじゃなくて、自分が幸福になりたいと思う権利は誰にでもある、  
幸福というものの内容はみんな違うので、それは別にいいのだけれども、ただ幸福になりたいとい  
う思いだけは、絶対に否定してはいけないというのが日本国憲法の基本の考え方です。そこをきち  
っと出しているところが素晴らしいと私は思いました。

## 松下教育長

教育出版を評価する声が高いですが、構いませんでしょうか。

## 委員一同

【異議なし】

## 松下教育長

それでは社会（公民的分野）は、教育出版で決定させていただきます。続いて、地図の説明をお  
願いします。

## 学校教育課馬詰指導主事

続いて、地図です。地図は、東京書籍、帝国書院の2社のみとなっており、このうち2社ともが選定されております。

黄色の各社の付箋のページをお開きください。「ヨーロッパ州の資料」のページについてでございます。東書、帝国ともに、それぞれ必要とされる資料が網羅されております。

東書を御覧いただきますと、いくつかの資料にはピンクで囲まれた「ジャンプ」と書かれたアイコンがあり、記載されているページにいくとその資料と関連する別の資料が示されております。

帝国を御覧いただきますと、イラストが入った鳥瞰図がとても分かりやすく、地形の変化や高低差などもつかみやすいようになっております。

次に、各社別の特徴でございます。ピンク色の付箋のページをお開きください。

まず、東書の111ページでございますが、江戸時代末期の江戸と現在の東京の鳥瞰図が上下に見開き2ページで大きく示されております。現在と昔を上下で示すことで違いが大変分かりやすくなっております。

次に帝国でございますが、日本の世界遺産や、伝統的な町並みの保存等の写真が掲載されており、また、地図中には伝統的工芸品や地場産業の絵記号、世界文化遺産の記載など、伝統・文化に関する内容が盛り込まれ、日本の歴史・生活・文化への理解が深まる内容になっております。以上が、地図についての説明でございます。

## 松下教育長

質疑をお願いします。

## 谷委員

地図はやっぱり見た目というか見たときに見やすい色合いとかそんなのも大事だと思います。これを見ると大体同じ場所なのですが、東京書籍の85ページと86ページ、それから帝国書院の105ページと106ページに淡路島とかを出していますが、やっぱり見たときに帝国書院のほうが見やすいですね。東書は色が良くないと思います。

## 森田委員

色使いですかね。

## 谷委員

色使いですね。

## 森田委員

先ほど御説明いただいた中で、東京書籍さんのピンクの付箋のところですけども、江戸時代の昔と今がありますというのが、これはどこの地方でも昔と今があるというわけではないですよ。特色として関東を出している、昔はこうだったけど今はこんなになっている。逆にほかの地方でやるとあんまり変わっていないなどもあるのかもしれないですけども、何を申しあげたいのかと言いますと、特色がここだとすると、それこそまた関東だけをクローズアップしているというか、ほかの地方のところはなくて、ここのピンクの付箋だけが特色だとそれだけでいいのかなという気がいたしました。帝国のほうが色使いはいいと思います。自分が小学生のとき、これを使っていたような気がします。色が見やすいと思います。

## 谷委員

色がきれいで見やすいです。

## 西森委員

東京書籍の134ページと帝国書院の158ページですけども、どちらも1月の気温を取り上げるのは一緒で、東京書籍は7月で、帝国書院は8月を取り上げています。律儀というか、6か月単位でとらないといけないと思っているのかもしれませんが、今8月に生きる我々には、8月がとてもリアルなのですが、これはどうして7月と8月の違いになったのでしょうか。暑さを言うのだった

ら8月ですよ。そういうところで比較が中途半端かなと、何で暑いところをとらなかったのかなという感じはします。どう考えても8月のほうが暑いですよ。

**松下教育長**

一番暑かった41.1度が8月ですからね。

**西森委員**

7月をわざわざとるのは、半年に1回統計をとらないといけないという真面目さや律義さは感じるのですけど、地理の特徴を捉える上で、1月と8月が正解ではないかと思います。

**松下教育長**

8月は、降水量は少ないとしたものですか。

**西森委員**

でも台風が来ますよね。

**松下教育長**

1月と比べると8月は多いとしたものなのですね。

**西森委員**

1月は雪が降るところは多いという話ですね。帝国では、積雪量という捉え方ですね。試験のひっかけ問題みたいですね。降水量と言っているけど雪が降っているから多いという感じの問題が出るとは思います。積雪量と出してもらうと高知の子にとっては、なかなか面白い感じになりそうですよね。

**松下教育長**

降雪量というのをわざわざ出しているのですね。

**西森委員**

水は水でしょと言われるかもしれませんが。暑い、寒いの実感を伴って地理を感じさせてくれるという意味では、積雪量という書き方は面白いと思いました。

**松下教育長**

年平均気温と積雪量ですね。

**西森委員**

大事な災害のところですけど、東京書籍は135ページが自然災害の話になっていて、帝国書院は159ページになるのですが、真ん中の南海トラフもさることながら、下のほうに東日本大震災の被害についてあります。これとかも高知の人間にとって、ものすごく実感が湧かないところなのですよ。これだけ広域にわたって、千葉県のようにまで津波が来ているというような。でもやっぱり災害って局所的に起こるものではなく、全体的に起こるものなのでそういう辺りをきちっと見せてくれているというのが帝国書院さんに対する印象です。

**松下教育長**

ダイナミックにということですね。こういう関連を意識しながら一目で分かるという。

**西森委員**

ここに住んでいた人たちはみんな被害にあったのだよという。東日本大震災でも東京に居た人たちと私たちではまったく体験が違うわけですよ。

**松下教育長**

丸の2番が南海トラフなのですね。

**西森委員**

そうですね。これだけ広域ですよ。3番の東日本大震災もこれだけ広域に被害があったという。こんなのは東京書籍にもあるのですかね。あるのかもしれないですけども、地図なのでバラバラパーツを見せるのではなく、つながりを見せてほしいという感じはあります。

**松下教育長**

位置関係ですよ。

**谷委員**

東京書籍は分かりやすくないですね。帝国書院のほうがいいですね。

**西森委員**

それは何ページですか。

**谷委員**

これが出ているのは、135ページです。

**松下教育長**

これは本当にダイナミックに載せていますね。

**谷委員**

いいですね。こういうのを見せていかないといけないですね。

**西森委員**

東京書籍もあっちで何が起きた、こっちで何が起きたという書き方をされていますけど、全体のつながりとして全域に及んだのだというイメージの見せ方はできていないと思います。

**松下教育長**

それでは、地図は2つのうち、帝国書院を推す声が大きかったです構いませんでしょうか。

**委員一同**

————— 【異議なし】 —————

**松下教育長**

それでは、地図は帝国書院で決定させていただきます。数学の説明をお願いします。

**学校教育課馬詰指導主事**

続いて、数学です。数学は7社のうち、東京書籍、学校図書、数研出版の3社が選定されております。

各社の青色の付箋がついたページをお開きください。各章の始めのページに準備された、その章の学習内容を意識させるとともに、生徒の興味・関心を高めるためのページになっております。

東書を御覧いただきますと、数学での学びを使い、収穫したリンゴの個数を数えずに求める方法を考える内容が掲載されています。また、日常生活の場面から必要な情報を見つけるために、文字を使った式の学習をいかして未知の数を求める方法を考えていける学習となるような設定がされております。

次に、学図を御覧いただきますと、小学校の理科で使用する上皿天秤を使った簡単な問題が掲載されています。実際に、問題を実演することも可能で、より興味や関心を高めることができる内容です。

次に、数研につきましては、文字式の学習を振り返ることで、方程式の学習につながるように構成されています。また、文字を使って身近な問題が解決される気付きにつながる内容となっております。

次に、各社別の特徴でございますが、各社ピンク色の付箋のページをお開きください。

まず、東書でございますが、「クイックチェック」の表示により、学習したことを確認すべき練習問題が追記されております。また、「学びをふり返ろう」では、大切にしたい見方・考え方が示されているので、ほかの単元での学習でも活用できる力を生徒が確認することができます。

次に、学図でございますが、巻末に学習内容を活用し、スクラッチを用いたプログラミング体験ができるページがあります。また、ページ番号を素因数分解しており、学習内容を身近に感じられる工夫もされております。

そして、数研でございますが、「ぐんぐんのぼそうチャレンジ編」が設けられており、数学への興味・関心を高められるような内容となっております。以上が、数学についての説明でございます。

**松下教育長**

質疑をお願いします。



## 谷委員

この学校図書にあるピンクの付箋のところに、「プログラミングを体験してみよう」というのはほかのところにはありますか。

## 学校教育課馬詰指導主事

「プログラミングを体験しよう」というのは、他社には載っていません。

## 谷委員

これを数学で扱うということでもないのですよね。

## 学校教育課馬詰指導主事

参考までというところにはなります。小学校では、割とこのスクラッチというものを使うことが多いと思いますので、そこからつながるようなイメージでの掲載だと思います。

## 森田委員

先ほどお話が出ました、プログラミング体験とか付録みたいなものも魅力的と思いました。

お聞きしたいのが数研出版さんのピンク色の付箋の「ぐんぐんのぼそうチャレンジ編」というのと、タブレット学習だとどっちがいいのかなと思いました。タブレットでもできるのであるとしたら、これはそこまでの効力はない気がしたのと、数学嫌いな人は、数字を見ても嫌いなので、逆にそういうふうな数学ではありえないこのイラストにしたのかなという気もしました。でもここに数学がつながっているぞというメッセージもあったりして、イラストだと東京書籍のほうが、数字とか絶対見たくないっていう人にはいいのかなと思いました。タブレット学習とチャレンジ編とどっちを先生方は注目されているのでしょうか。

## 松下教育長

声が届いておりましたらどうでしょうか。

## 学校教育課馬詰指導主事

チャレンジ編をやる生徒は中にはいると思いますけど、高知市が導入している、「A I 型デジタルドリル」がメインになろうかと思っています。

## 西森委員

東京書籍の1年生の8ページなのですが、「教科書のマーク」という欄があります。ここに「インターネットを使った学習ができる」、「大切にしたい見方や考え方を表しています」とあって、最後、「(1)必ず解けるようになりたい問題です」というのがあるんですね。こういうのは、ほかの教科書にもありますか。

## 学校教育課馬詰指導主事

先ほどおっしゃられましたハートマークの部分が「クイックチェック」の部分でもそうですけど、いたるところに載っていますが、これは抑えておこうという形です。これに関しては、他社の教科書では表示はされていません。

## 西森委員

ざっと見た限り、数研出版1年6ページに、「学習に役立つコンテンツ」ということで、星があつて、一緒にある振り返る問題とかアイコンのある問いの反復問題とか、アイコンのある難しい問題などがあつて、A I 型デジタルドリルとの関係もあつて、A I 型デジタルドリルはもう勝手に振り分けてくれる時代になっているわけなのですけれども、どっからやったらいいですか、最低限これだけは抑えてくださいというのは、何をやる上でも結構大事なのかなと思っていて、とりあえずこの教科書を読んでみて順番にできるところからやってみようというのは、何か漠然としていて、結局どこまでもいかない場合があると思うのですけれども、ここだけでいいとは言いませんが、東京書籍としては、問題を厳選しているので、ハートだけ全部つぶしてみても、これが完璧に解けるようになっていたら基礎は大丈夫ということだと思えますよね。そういうような抑え方というのは、学習の基盤というのでしょうか、基礎的な部分を固める上ではすごくいい取り組みではないかと思いました。

数研出版は、やっぱり真面目というか、ある意味古典的なきっちりとした数学の教科書という印象があります。きちんと一つ一つを積み重ねてやっていけばできるようになりますよということなのでしょうけど、途中で挫折したときにどうしたらいいか分からないなという感じはしました。

#### 谷委員

チャレンジ編などこういうのは、今、GIGAタブレットであるわけですね。そういうのと被る感じがします。いるのかなという感じもしないでもないですけど。この東京書籍の最初の具体的な説明をしているところは、すごく分かりやすいですね。すごく丁寧で分かりやすい感じがして、1年生が入ったときに数学でまず躓く、数学が一番学習意欲をそぐ教科になるからそういう意味では、あんまり固すぎても駄目だし、東京書籍は入りやすそうな感じがしますね。でもどうなのでしょうね。数学的な見方・考え方とか数学的というのが、どういうふうはこの教科書では響くか、ほかの先生方の声とかはどんな感じでしょうか。

#### 学校教育課馬詰指導主事

御意見としましては、本当に数学が好きで計算とか数学の考え方をどんどんやっていきたい子たちにとっては、数研出版がいいという意見を聞いております。ただ、先ほども申しましたように、まずはハートマークがついた問題が解けるようになろうというのが魅力的で、基礎的な問題はしっかり押さえたいというのがありますので、そういった御意見がございます。

#### 谷委員

学力調査でもあまり数学の点数が高くなかったみたいですね。意欲は大事だと思うし、学ぼうとする気持ちになるような教科書じゃないと、高度な子供はどんどんできるだろうけど、ほかの子を思ったら東京書籍のほうがいいような気がしますね。

#### 西森委員

私は、数研出版の1年生の見開きの2枚目のところのダイヤモンドクロッシングというので、高知市が出ていて嬉しいなと感じました。

#### 谷委員

高知市が出ていますか。これすごく有名ですね。

#### 西森委員

そうですね。上から見たらきっちり図形的になっているという。とは思いつつ、やっぱりこういうところでつかんでも、言っている中身が難しい。

#### 谷委員

東書が入っていきやすそうな気がしますね。

#### 松下教育長

使いやすさというか、子供たちの入っていきやすさという観点もおっしゃっていただきました。数学は、東京書籍を推す声が大きいですけど構いませんでしょうか。

#### 委員一同

————— 【異議なし】 —————

#### 松下教育長

それでは、数学は、東京書籍に決定いたします。理科が終わりましたら休憩にさせていただきますと思います。理科の説明をお願いします。

#### 学校教育課馬詰指導主事

続いて、理科です。理科は5社のうち、東京書籍、学図、啓林館の3社が選定されております。青色の付箋のページをお開きください。第1章の学習のまとめのページになります。各社とも大切な用語や内容を分かりやすくまとめています。次のページからは確かめの問題が3社とも準備されております。

東書を御覧いただきますと、確かめ問題の後に活用問題が準備され、その横には学習に関連した職業の方のインタビューから学習内容を社会生活につなげる機会が設けられております。

学図を御覧いただきますと、基本問題の横にチェック欄があり、生徒自らが学習状況を把握できるように工夫がされています。

啓林館につきましても、「思考力UP」など深く考える問題が準備されています。

次に各社別の特徴でございますが、各社ピンク色の付箋のページをお開きください。

まず、東書についてでございますが、ページ左下に探究の過程のどの段階を辿っているのかが記載されているとともに、教科書の随所に、課題に対する結論を表現しようという内容でキーワードを示し、課題に対する自分の考えをまとめ、友達と共有する活動が準備されております。

次に、学図でございますが、「理路整然」のコラムでは、探究の進め方が示されております。

そして、啓林館についてですが、「みんなで探Qクラブ」において、生じた疑問から課題を設定し仮説を立て、実験・観察を通して検証する探究の過程を辿る場が設定されております。以上が、理科についての説明でございます。

#### 松下教育長

それでは、質疑をお願いします。

#### 森田委員

私の印象ですけど、先ほどの数学と同じように表紙を見て、なぜこれが科学なのだという意外性が科学嫌いの子供たちにとっては結構いいのではないかと思います。ただ、今のところ、ほかのところにもたくさんいいところがあると思っています。例えば東京書籍さんの1年生の教科書をこの教科書何と違って開いたら、どう見えているのとか、いろんなものが見えてきてそこから科学の面白さへ引き付けているのかなという印象を持ちました。一方そういうことは、ほかの教科書もやっているとすれば、例えば学校図書さんを見てみると美しい景色だとなるけど、2ページから3ページのところには漫画もあります。インパクトとしては、この教科書は科学だという感じがします。インパクトだけでは決めてはいけないのかもしれませんが、東京書籍の2年生は「明日は何々かもしれない」とあって、「何なのだ。これは。」と思っていると、下の「あなたのもかもしれないというのは科学を勉強するサイエンスすることで強くなるんだよ」という話が出てきたりして、ある意味引き付けるという意味ではいいと思いました。これで面白くないと思ったら見ないので、家に持って帰らないで置いて帰るといった可能性もあるのかなと思います。

一つお伺いしたいのは、啓林館さんの「みんなで探Qクラブ」というのが特徴だということで、ピンク色の付箋をつけてくださっているんですけど、これは先生方の中でかなり好評なのか、いくつかの利点の中での一つという位置付けなのかという辺りはどうでしょうか。これも現実の生活に結び付いて科学の面白さを知ってもらおうということだと分かるのですが、すごく今の言葉でいうと推しているというか、これらの先生方の評価はどうなのかお伺いしたいです。

#### 松下教育長

お願いします。

#### 学校教育課馬詰指導主事

探究活動に関して取り上げる流れとしては、これがしやすいのではないかとというのが意見として出ていたところではあります。

#### 森田委員

好みみたいなイメージですか。

#### 学校教育課馬詰指導主事

そうですね。

#### 森田委員

かなり強く推しているとかそういうわけではないですか。

#### 学校教育課馬詰指導主事

課題から考察までの学習としてのイメージが強いかと思います。

## 森田委員

開いてみようかなという視点でまず考えてみました。

## 西森委員

本当にどれも写真がすごくて、昔と見せ方が全然違うと思って見ていました。本当にどれもこれも写真の工夫がすごい。ただ、とりあえず2年生の教科書を比較していくと、葉とか茎とかの話が出てきますが、東京書籍の2年生の122ページが葉っぱの断面が載っていて、こんなになっているんだと思いました。見開きの使い方がすごいですよね。きれいです。次のページに茎とかが出てくるのですが、茎とか根は小さいのです。逆に、学校図書の科学2の81ページは、どちらかというとも茎を推しています。茎がでかいのです。けど、学校図書の科学2の81ページは絵です。啓林館2年生の28ページは、何となく昔見た感じがします。大きさを比較しちゃいけないと思うのですが、大きさを言うと東京書籍のほうが圧倒的に見せ方が大きい、学校図書は大きいところと小さいところがあり、学校図書は82ページ辺りまで見ていくと、やっぱりそれなりに大きく見せよう、イメージを持たせようという努力はかなりされていると思いました。ただ、やっぱり感動させてくれるのは東京書籍でした。植物分野についてに限っては、啓林館のはそこまで見せよう、感動させようという感じではない。ほかのパーツで優れているところがあるのかもしれないですけど、これは教科書を作るときに姿勢なのかなと感じたところです。

## 松下教育長

写真からイラストに変わったのですかね。左はどう見ても写真で表と書いているこの辺りのところからイラストに変わって、ここの菅の断面を見せるためにイラストに変えたかというように、そういうダイナミックな見せ方をしているのかなと思いました。

## 西森委員

このページがすごく印象的だったのですが、東京書籍は写真とか見せ方にかなりこだわっておられると思いました。ほかの教科書もこだわっているという印象はあるのですが、インパクトの持たせ方は、東京書籍が一步上手で優勢なのかなと思います。

## 松下教育長

写真の見せ方、使い方ですよね。

## 谷委員

すごく写真がきれいですね。すごく子供がひかれる、興味を持って見ようとする要素がすごくあると思います。

## 西森委員

理科に関係あるかは別として、学校図書の3年生の66ページはすごいです。やっぱりどこも皆さん工夫しているんですよ。80ページの遺伝と進化でこのページというのも、やっぱり退屈させないように子供の心をつかむ工夫をすごくしていますよね。

## 谷委員

この教科書を持っておきたい気がします。

## 西森委員

そうですね。写真集みたいです。どれも本当にいい教科書だと思いましたけど、やっぱり理科を学ばせる上で東京書籍はとていいなと思いました。

## 谷委員

東書の教科書で音の世界なんかも花火を持ってくる発想がすごいですね。花火は確かにパンパン音がしますね。音の世界にここから入るっていうのが興味深いと感じました。

## 松下教育長

ほかの教科書もいいのだけれど、東京書籍の教科書が子供の興味をひくのに1個出ているのではないかということですが、構いませんでしょうか。

委員一同

【異議なし】

松下教育長

それでは、理科は東京書籍に決定をいたします。ここで、休憩としてよろしいでしょうか。

委員一同

【異議なし】

松下教育長

再開いたします。音楽一般の説明をお願いします。

学校教育課馬詰指導主事

続いて、音楽一般でございます。音楽一般は、教育出版、教育芸術社の2社のみが発行されており、この2社ともが選定されております。

オレンジ色の付箋がついた各社のページを御覧ください。1年生の教科書の目次のページについてでございます。各社とも歌唱教材において、幅広いジャンルから選曲されており、また、時代などにも偏りがないように選曲されております。1年生において、歌唱教材は教育出版が11曲、教育芸術社が8曲となっております。

次に、各社別の特徴でございますが、各社ピンク色の付箋のページをお開きください。

まず、教出でございますが、「サウンド・オブ・ミュージック」から「ドレミの歌」と「エーデルワイス」の曲の特徴を「音楽を形づくっている要素」を手掛かりに比較し、曲想の違いを理解して、表現の工夫にいかすことができるワークシートとなっております。

次に教芸でございますが、協働的な活動場面や、深い学びを引き出す問い「深めよう！」を示した「学びのコンパス」というワークシートが設けられております。学習の手順が丁寧に示され、各段階で考える観点や工夫することを吹き出して例示することで、ポイントを押さえて学習を進められるように工夫されております。以上が、音楽一般についての説明でございます。

松下教育長

質疑をお願いします。

森田委員

教えてください。この音楽の目標として、音符の読み方とかリズムの取り方とかを勉強するのももちろん大事だと思いますが、音が私たちの生き方にどう影響を与えるとかかそういうふうな目標があるとするならば、ここからが質問ですけど、歌唱教材の歌の多さが特徴など、それはあまり関係ないのですか。多いほうがいいのか少ないから駄目とかかそういうことではないのですか。数字でこっちは何曲、こっちは何曲というのはあんまり気にしないほうがいいのか。

学校教育課馬詰指導主事

曲数に関しましては、歌唱教材としては11曲と8曲とありますけれども、目次にもありますように教育芸術社でしたら、「歌い継ごう日本の歌」や「心かよう合唱」という曲も別に設けられております。教育出版に関しましても、目次の中での歌唱教材としては11曲ですけれども、「歌のアルバム」という違う目次のところに、ほかの曲が編集されております。基本的に3年間で50曲近い歌唱が取り上げられているのではないかと思います。目標としては、曲想と音楽の構造というのを学ぶとか音楽の表現を創意工夫するとかといった部分が音楽科の目標として挙げられています。

谷委員

生涯に渡って心を豊かにするというのが、芸術分野、音楽にはすごくありますよね。今、見て思ったのは、「君が代」が全部の学年にあります。教育芸術社の扱いともう一つと全然格調が違います。やっぱり国歌を扱うということは、日本のイメージがあり、オリンピックは両方にあるのだけこういうイメージというのはすごく大事だと思います。格調高いじゃないですか。これはすごくいいと思います。これは浅い感じがします。写真とか絵とか見たときにやっぱりきれいですね。学ぶ意欲とかが全然違うと思います。この「夏の思い出」というのは、もう一つのほうにはないの

だけど、この曲は入れるとか曲は固まっているのでしょうか。小学校ではありますが中学校もある程度はありますか。

#### 学校教育課馬詰指導主事

「夏の思い出」は、学年が違うところにあったと思います。教出は1年生ですけども、教芸は2・3年生のほうにあります。2・3年の上の18ページです。

#### 谷委員

これもいいですね。どっちもいい感じですね。こっちのほうが故郷という感じはしますね。この「音楽はメッセージ」と書いてある角野隼斗さん、今話題の人をここに取り上げているというのはインパクトが強いですね。

#### 学校教育課馬詰指導主事

課題曲としましては、「夏の思い出」は入っております。

#### 谷委員

両方の教科書でどこかの学年にあるってことですね。

#### 学校教育課馬詰指導主事

「赤とんぼ」や「荒城の月」が課題曲としてあります。

#### 谷委員

これもいいです。「シューベルト、作者の思いに触れる。「ちょっと待っていて、もうすぐ書き終える。」面白いです。作曲家もうこういうふうだったのだなと思いますよね。どうやって曲ができたのかというのを友達と2人でのやり取りで、というのも興味深いのを出していますね。

#### 西森委員

教育芸術社について、なかなか面白いなと思って見ていました。まず、教育芸術社の1年生の66ページに著作権の話が載っています。これは教育出版にはありましたか。たしか1年生にはなかったような気がして、著作権の話が2年生3年生で出てきますか。

#### 松下教育長

2・3年の上の64ページにあります。

#### 西森委員

コンピュータと音楽っていう中で出てきていますね。やっぱりこういうことに目配りをしないといけないですね。

#### 谷委員

著作権、大事ですね。きちんと抑えていますね。

#### 西森委員

教育芸術社のほうで、もう一つめくった68ページに「音」というテーマがあって、教育出版にもあるのかもしれないですけど、私が音楽に対して思っていたイメージは、ある日ここに座ってこういう音楽があるから歌えみたいなイメージでした。考えてみたらそれほどどこかの誰かが歴史を重ねて作りあげてきたものなので、なじんでいる人は入るけどそうじゃない人は聞かされている、歌わされているというイメージがありました。でも原点は、自然の中にあるこういう音から音楽に発展していくみたいな掴みでいうと、一部の慣れている人は歌えるけどそうじゃない人は歌えないみたいになっていないような作りになっている気がしました。音からスタートする、さらに発展的に著作権にも気を遣っていて、音楽の周辺のところにあるものに対しても目配りがあるという感じが教育芸術社についてはしました。ほかにも載っているのかもしれないですけど。もう一つ面白かったのが教育芸術社の2・3年の下の58ページに、ポピュラー音楽のページがあって、ポピュラー音楽自体はもう一つの教育出版にも取り上げられているのですが、教育芸術社の60ページを見ると音楽の関係性というのが出てきて、その1個後ろに、ジャンルでジャズとかグループサウンズとかが載っています。これは何のジャンルだとか言われてもよく分からず漠然と聴いていたんですけど、こういう音楽の体系みたいなのが載っているのが個人的にはすごく興味深いです。教育芸術社の2・

3年の下の60ページ、こんなのは教育出版にもありましたか。いろんな音楽の種類があるよ、洋楽の中でもこんなつながりがあるよというのが載っています。こちらの54ページにポピュラー音楽図鑑がありますね。見せ方の違いですね。体系的に見えるのが教育芸術出版の見せ方で、図鑑的に見えるのが教育出版。写真とか感動を与えてくれるのは教育出版さんでしょうけど、勉強だからということと言うと、教育芸術社のほうが勉強にはなっているのかなと思います。

#### 谷委員

それぞれの写真もきれいですね。イメージがすごく大事だから引き込まれます。昔の音楽の教科書は楽譜ばかりだったけど今はすごく変わってきていますね。

#### 西森委員

教育芸術社ばかり私は推してしまうのですが、60ページから63ページにあることは、ちょっとおしゃれな人が談笑するときに、誰々がどっから出てきてこっちに発展していったみたいなそういう類いの話ですよ。

#### 松下教育長

ジャンルについては、本当に見せ方の違いかなというふうにしたのですよね。どんと写真が出て興味をひくのか、体系的な部分になるのかというようなことなのかなと思いました。

#### 西森委員

取り上げるべきテーマとしては、どっちも配慮していて、私はどちらかという全体を見せている、つながりを見せている、“これはこれです”よりも“これはこうつながってこうなります”という見せ方の教芸のほうが何となく話題というか、話し合いにつながるといったイメージを持ちました。「君が代」に関していうと、教芸は国家・国旗・国際的儀礼ということについて、毎回同じことを書いています。他国のものも尊重しましょうという。他国の旗を何かのイベントで飾りたいというお話を受けたことがありますけど、絶対に失礼がないようにしてくださいねと、それはファッションでやってはいけませんよというのを申し上げたことがあって、教育出版はその辺りが比較的ふわっと書かれています。教育芸術社のほうが固い言葉で明確に指示している感じがします。教育芸術社のほうが教科書っぽいというイメージを持ちました。見せ方の問題です。

ブルースとかゴスペルとかをぱっと見たとき、この人誰だろうと思って聞いてみたいとか、迫力が印象に残るといった意味ではいいのかもしれないですが、これがどういう音楽のつながりになっているのかというのは、よっぽど好きじゃないと学べない感じがするので、大人だから思うのかもしれませんが教育芸術社のほうが何となく学びたいことが書いてある感じがします。

#### 谷委員

教育出版の2・3年の上は、雅楽なんかも取り上げています。いいと思います。

#### 西森委員

雅楽は教芸のほうは、取り上げていなかったですか。

#### 谷委員

取り上げているでしょう。

#### 西森委員

恐らく両方とも取り上げていると思います。雅楽は教芸のどちらにありますか。

#### 教育政策課長

教芸音楽1の52ページにあります。

#### 西森委員

教芸の音楽1の52ページですね。教出のほうではどちらにありますか。

#### 松下教育長

2・3年の上の48ページにあります。

#### 西森委員

両方とも雅楽の表情、越天楽表情が載っています。

## 谷委員

この学習マップというのがいいかもしれません。

## 西森委員

教芸の場合だと雅楽の前のページに日本音楽入門というのが書かれていて、それでこう流れていくというこれまで学んだことがなかったものがあるって、それがちゃんとつながりとしてあって、越天楽の話に行くと、お琴の話につながるというふうに流れがありますね。教育出版のほうは、この後、能に入って、今度郷土の音楽についてですね。こちらはどうなっているかというとお琴の後、日本の民謡に行くと、ソーラン節に行きます。

## 松下教育長

流れとしては、教芸のほうの流れのある感じがありますね。

## 森田委員

音楽をいろいろ勉強している方に教えていただいたことがあって、音楽は旋律で奏でられるものを受け身で聴くものではなくて、音そのものに集中することが大事だということを教えてもらいました。例えば、セミの鳴き声など、集中していると聞こえてくる音がいっぱいあるのだよという話を聞いたところ、ちょうど、教育芸術社の1年生の68ページのところに「社会や生活の中の音」とありまして、今私もそういうところで仕事をしていますが、学校の中に気になる音はないですか、いろんな音がありますよねというのがあります。だから音楽の目的は上手に歌えるとか楽器が演奏できるのももちろんあるのですが、身近なところに耳を澄ませて心を落ち着かせるという役割を考えるきっかけとしてというのがこの69ページのところで、私が聞いた話と関係もあると思いました。ここは評価できる場所だと私は考えました。あとどこかに主体的に「CMソングを作ろう」みたいなものがあって、決してお行儀よく座って西洋音楽だけを聴くのが音楽ではないというようなメッセージを受け取った感じがします。

## 谷委員

1年生の教芸の音楽に「君をのせて」というのが出てきますけど、この曲は中学生が好きだということをお聞きしました。だからそういう好きな曲が載っていたほうがいいかもしれません。

## 松下教育長

音楽一般は、いろんな御意見をいただきました。両方に特徴があって、甲乙付け難いというふうに思いますけれども、今のお話をお伺いしたところ、教育芸術社のほうが一歩進んでいるのではないかと御意見がありました。構いませんでしょうか。

## 委員一同

————— 【異議なし】 —————

## 松下教育長

音楽一般は、教育芸術社で決定させていただきます。続きまして、器楽合奏の説明をお願いします。

## 学校教育課馬詰指導主事

続いて、音楽器楽合奏です。器楽合奏につきましても音楽一般同様に、教育出版、教育芸術社の2社のみが発行されており、2社ともが選定されております。2社ともに1冊で構成されており3年間使用するものになります。オレンジ色の付箋がついたページをお開きください。2社ともリコーダーについての学習のページでございます。2社とも、演奏中の姿勢やリコーダーの各部の名称、チューニングやタンギングについてなど、写真やイラストなどを使用し、分かりやすく学習できるように配慮されております。

教出を御覧いただきますと、「姿勢と構え方」の写真は、斜めからアルトとソプラノの大きさの違うリコーダーの写真が掲載されています。

教芸を御覧いただきますと、「姿勢と構え方」の写真は、正面と側面からそれぞれ示されています。音の響かせ方のイラストもあり、より生徒がイメージしやすいようになっています。



次に、各社別の特徴でございますが、各社ピンク色の付箋のページをお開きください。

まず、教出を御覧いただきますと、最後の折込みページでございますギターやキーボードのコード表でございます。実際の写真を使うことで、指だけでなく手首の角度なども分かり、より実践的に活用することができるようになっております。

次に教芸でございますが、「音楽って何だろう？」と題して、音楽の奥深さが伝わるメッセージが掲載されており、その横には、諸外国や我が国に伝わる様々な音楽文化の写真が掲載されております。また、QRコードを読み込むとそれぞれの楽器の動画を視聴することができるようになっており、よさこい祭りの動画も収録されております。以上が音楽器楽合奏についての説明でございます。

**松下教育長**

質疑をお願いします。

**西森委員**

ギターのコードは、教芸のほうにはないのですか。

**学校教育課馬詰指導主事**

教芸もでございますが、写真ではなく指だけのイラストとなっています。

**西森委員**

問題ないというか、むしろこっちのほうが見やすいかもしれないですね。どの弦を押さえるかですからね。

**松下教育長**

イラストだけのほうが押さえているところが分かりやすいですね。青い丸は指が弦に当たっているところですよ。写真ではこれはなかなか分かりづらいですね。

**西森委員**

そうですね。理科との違いですよ。理科の場合ですと写真で見たかったですけど、音楽器楽合奏だと絵のほうがいいのではないかという感じがしました。さっきのリコーダーの構えにしても演奏に対する真剣さを感じます。教育出版さんが真剣じゃないわけではないでしょうけれど、見せているのか弾かせようとしているのかというような感じがしました。

**松下教育長**

本当に素人で初めてギターに触る子がやるときに、当たっているか当たっていないか、そういう世界ですよ。

**西森委員**

そうですね。

**谷委員**

やっぱりリコーダーが一番まず全員が学ぶものなので、そこをきっちりと押さえておきたいですね。

**松下教育長**

甲乙つけがたいですね。

**西森委員**

打楽器はどうでしょう。今、たまたま開いた教芸の黄色の付箋の63ページが打楽器なんですけど、打楽器は本当になめてはいけないというか、きれいな音を出そうとすると難しい楽器ですよ。教育出版はどこしょうか。

**学校教育課馬詰指導主事**

教育出版の打楽器は、102ページです。

**西森委員**

これは割ともろにたたく系の楽器で、教芸は63ページになりますか。

### 学校教育課馬詰指導主事

教芸は63ページから、64、65、66、67、複数ページにわたって15種類の打楽器が紹介されています。

### 谷委員

かなりありますね。すごいですね。

### 西森委員

手厚いですね。学校ってどうなのでしょうね。自分の中だとコンプレックスみたいなのがあって、ピアノを習っている子はいい感じにできて、ピアノを習っていない子は部外者的なイメージで、教室に立っているイメージがあります。やっぱりピアノをやっている子は何やっても一步リードしていると自分が勝手に思っていて、打楽器は学校で教えてもらったりしていますか。そもそもカウベルとか学校にあるのだろうかと思ったりしました。

### 学校教育課馬詰指導主事

全てが学校にそろっているというわけではないと思いますけれども、あるもので打楽器の授業をそれぞれの学校でされています。

### 西森委員

幼稚園の頃とか小学校低学年のイメージですけど、管楽器とか鍵盤楽器は花形な感じがあって、こういう打楽器は、音楽では実はすごく重要だったりします。だからこういう部分を手厚く載せてくれて、学校現場でも鍵盤楽器コンプレックスみたいなのを何とかしていただけたらいいなと思いました。

### 谷委員

太鼓もたくさん載っていますね。

### 西森委員

迫力あるのはパーカッションですよ。

### 谷委員

そうですね。

### 西森委員

打楽器だと人によってハンデがないと思うんですよ。でもなかなか楽器をそろえるのは大変ですよ。

### 松下教育長

中学校の場合は、小学校のように合奏というのはあまりなくて合唱が多いのですが、アンサンブルというような形でやるのはこれまでもあります。その中でも打楽器というのは役割を持っています。みんなで笛を吹きましょう、ソプラノ、アルトを吹きましょうというのもあるんですけど、アンサンブルのような、そういうのも音楽を楽しむ道の一つだと思うので、打楽器が充実しているというのは、音楽に対する広がりみたいなものを感じられると思います。

### 谷委員

小学校の音楽会は今もやっていますよね。すごい演奏をしますよね。高学年でもびっくりするくらい演奏します。器楽は大事ですね。

### 松下教育長

そういう意味でも教芸の71ページから、アンサンブルの「エーデルワイス」のような本当に単純なものから「春」があったり、「笑点のテーマ」があったり。「笑点のテーマ」は50年以上続いているからすでに古典ですよ。生き残っているクラシックですよ。そういう意味での捉え方だと思います。この「美女と野獣」と同じように並んでいる、しかも、アンサンブルとしての演奏のしやすさだけではなく、恐らく音が重なったときのやりがいみたいなものも多分あるのだと思います。だからこういう選択の仕方をしているのだろうなと思います。

## 谷委員

「モルダウ」とかもありますね。「アラジン」もあります。

## 西森委員

90ページに打楽器のための小品というのがありますけど、全然イメージがわかりません。音が重なりと聞こえるのでしょうか。

## 松下教育長

そういうことだと思います。これを6人で弾いたらアンサンブルになるということだと思います。

## 西森委員

どんな音になっているのか聞いてみたいです。

## 松下教育長

それでは、音楽器楽合奏は、教育芸術社で決定してよろしいでしょうか。

## 委員一同

————— 【異議なし】 —————

## 松下教育長

美術の説明をお願いします。

## 学校教育課馬詰指導主事

続いて、美術です。美術は、開隆堂出版、光村図書出版、日本文教出版の3社が発行しており、この3社ともが選定されております。なお、開隆堂は2冊構成、光村については2冊構成に加え資料が1冊構成で、日文は3冊構成になっております。

青色の付箋のページをお開きください。各社屏風の表現の良さや構図の工夫などを学習するページになります。各社折込みのページを利用し大きさの工夫などをしております。

まずは、開隆堂を御覧いただきますと、全体図と原寸の大きさでの一部分の写真が掲載されております。

光村を御覧いただきますと、折り曲げられた状態の写真や暗い状況での作品の比較ができるように工夫されております。

そして、日文を御覧いただきますと、唐獅子図屏風を取り上げておりますが、実際に折り曲げることができ、奥行きなどの見え方の変化を確かめることができる工夫がされております。

次に、各社別の特徴でございますが、ピンク色の付箋のページをお開きください。

まず、開隆堂でございますが、54ページの学びの資料では、中学生がよく使う鉛筆や絵の具の技法、発送・構想のヒントが掲載されております。

光村につきましては、学習活動を支援する資料が別冊となっており、生徒が手軽に課題解決に向けて参照することができます。また、別冊資料には、マッピングなどの思考ツールが掲載されており、発送・構想の手掛かりとして活用できます。

日文につきましては、2・3下の45ページに、「デザインで地域を豊かに」という鑑賞のページで、高知県が見開き2ページで紹介されております。以上が、美術についての説明でございます。

## 松下教育長

美術は、表紙自体が各社の比較になっているという意味ですね。表紙にオレンジの付箋が張られています。

## 西森委員

開隆堂の触った感じがすごいですね。

## 谷委員

すごいですね。本当にこんな感じだったのでしょね。

## 西森委員

開隆堂は見開きがいきなり「ジョジョ」ですか。すごいのからきますね。

## 松下教育長

この資料というのは、資料も含めて教科書なのですか。

## 学校教育課馬詰指導主事

資料も含めて教科書になります。

## 森田委員

資料を外せるというのは、先生方としては意義があると思っている感じなのでしょうか。見ていると主体的にこれをもって作っていきこう、どうやって書いていきこうというクリエイションのような主体性を促すような感じもしていて、全部は見えていないのですけれども、写真とか映像とか発想とかものの考え方とか、クリエイティブな0から1を生み出すような、そういうことを促すような別冊というか、ここまでは先生たちが教えるけどここからは君たちがやるのだよというようなメッセージを感じました。先生たちの評判をお願いします。

## 学校教育課馬詰指導主事

先生方からは、子供たちのヒントとなるものとして別に構えられているのは、非常に使いやすいとおっしゃっていました。

## 松下教育長

自分がどういう作品を作るかっていうためのまさに資料です。教科書の本文とは分けて考えるということですよ。

## 森田委員

写真の撮り方とかもあるんですね。

## 谷委員

光村図書の美術史年表っていうのが大きくあるのですが、これはほかのところにもありますか。日本・朝鮮・中国・世界と美術史の流れが見えていいなと思いました。

## 学校教育課馬詰指導主事

日文の2・3年上の58ページにあります。

## 谷委員

ゲルニカは、ほかのところも取り扱っていますか。ピカソが書いているところまで出ています。

## 学校教育課馬詰指導主事

開隆堂で言いますと、2・3年の46ページに掲載されております。

## 谷委員

全然違いますね。光村図書のゲルニカとピカソの書いている様子とかイメージがすごく違います。すごく丁寧にやっていますね。すごく大事なことだと思います。

## 学校教育課馬詰指導主事

日文につきましては、2・3年下の26ページに見開きでゲルニカが載っています

## 谷委員

でもやっぱりスペインのゲルニカそのものが出ているのがいいですね。やっぱりセットになっているからいいと思います。これはなかなか素晴らしい。

## 松下教育長

これを見たときにこれはすごいと思いました。一番最初の比較のところにもありますが、風神雷神、こういう発想がすごいと思います。ゲルニカもすごいなと思いました。

## 谷委員

風神雷神、すごいですね。鑑賞にすごい力を入れてますね。鑑賞はすごく大事です。これ、ゴッホの絵そのものがこのようですよ。それぞれにすごく工夫されていると思います。

## 西森委員

岡村太郎さんの話で言うと、光村図書って2・3年の見開き表紙をめくったところに大きい太陽の塔の顔がどんと載っていて、日文だと2・3上の50ページによくある感じで載っていて、その隣

に「明日の神話」があります。「明日の神話」は、光村だと中ほどのページに載っていて、24ページにどんと出ています。さらに1枚めくったところに岡本太郎さんの話が載っています。開隆堂では、岡本太郎さんはどんな取り上げられ方ですか。

#### 学校教育課馬詰指導主事

開隆堂につきましては、1の表紙を開いてのところですよ。

#### 西森委員

「明日の神話」は、どこにありますか。

#### 谷委員

「明日の神話」は、東京のどこかに書いてあるんですよ。どこでしたか。

#### 西森委員

東京都の渋谷駅に設置されていると書いてあります。「ゲルニカ」と岡本太郎さんの「太陽の塔」と「明日の神話」辺りは恐らく必修的なものなのだろうなと思いますけど、「明日の神話」はないですか。

#### 谷委員

「明日の神話」はほかのところにはないようではありますがありますか。

#### 西森委員

光村図書と日文にはどっちもあります。見せ方は、どんと大きいのが光村図書ですね。

開隆堂の2・3年の76ページに雲の上図書館が載っています。これもどんと載っていますが参考までにという話でございます。

#### 谷委員

雲の上図書館の次のページ、77ページにある名古屋市の小児科病棟ですがすごいですね。点滴している子供が感激して楽しんでいる。

#### 西森委員

小児科病棟はこういうのは重要でしょうね。

#### 谷委員

それぞれにいいけれど、どうしましょうね。

#### 西森委員

どうしましょう。光村さんの場合、別冊をどう評価するかなんですよ。

#### 谷委員

この資料というのをですか。

#### 西森委員

これは本来教科書に入っていたものですよ。本来組み込まれていておかしくないものを教科書会社の意図として、あえて外した理由はなんですか。本当は組み込めばいいものだと思うのですが。技術的な部分を資料に外して、鑑賞という部分を教科書から切り分けたという感じなのでしょうか。何時間か前にやった書写とかもそうですよね。ドリルを切り分けて、こっちの教科書はずっと持っていられますという感じにしたイメージがありました。美術はドリルではないですけど、どんな材料を使うかななどを示していて、本来こっちにあっていいものをあえて外している、その趣旨は何でしょうか。

#### 学校教育課入江班長

先ほど西森さんがおっしゃったように、資料は、本当は教科書に一体化していたものなのですが、特に作業をするときにページ数のある教科書を開くよりも、資料として技術的な専門的なものだけを取り出して見るというときにはこちらのほうがより便利だということです。小学校の教科書でも資料として別で構えることもございます。西森委員がおっしゃったとおりです。

#### 西森委員

教える側からも学ぶ側からもそうですけど、先んじた工夫があるということなのですね。

## 松下教育長

教科書会社の工夫ですね。

## 西森委員

これを毎回持ってこさせて、何ページを開いてとやるよりは、作業のときに使うものが欲しいという現場の先生方のお声もあるかもしれませんね。

## 松下教育長

机の上には絵があったり粘土があったり木材があったりしているわけだから、それだけをぱっと資料として見るという使い方でしょうかね。

## 谷委員

この重いのを頻繁に上げないといけないというよりも、活用しやすいということなのでしょうね。

## 松下教育長

いかがでしょうか。3冊とも非常にきれいだし、子供たちの興味をひくもので時間をかけてしまいました。光村図書のほうが優れているという声が多かったように感じましたが、構いませんでしょうか。

## 委員一同

————— 【異議なし】 —————

## 松下教育長

それでは、美術は光村図書で決定いたします。次は、保健体育の説明をお願いします。

## 学校教育課馬詰指導主事

続いて、保健体育です。保健体育は、4社のうち、東京書籍、大修館書店、株式会社G a k k e nの3社が選定されております。

青色の付箋のページをお開きください。運動やスポーツが体や心に及ぼす効果について学習する内容のページとなっております。各社とも生徒の日常生活を見つめ直すことから学習課題をつかむことにつなげております。

東書を御覧いただきますと、学習内容を日常生活のどのような場面で役立てるのかを考える項目があります。

大修館を御覧いただきますと、「体力や技能の向上」や「健康への効果」など、本文の要点を示しているのので、本文の内容を読み取りやすくなっております。

学研を御覧いただきますと、エクササイズの項目が設定されており、課題解決につなげるために意見を出し合う場の設定につながっております。また、「新体力テスト」の話題から健康に生活するための要素についての紹介がされており、「新体力テスト」の結果をいかすことができます。

次に、各社別の特徴でございますが、各社ピンク色の付箋のページをお開きください。

まず、東書でございますが、177ページに巻末資料として、心肺蘇生法の手順や熱中症の応急手当など、実習にいかすだけでなく、日常生活で活用できる内容が設けられております。

次に、大修館を御覧いただきますと、186ページに用語解説のページが設けられており、生徒が学習内容を振り返りやすいように工夫されております。

そして、学研でございますが、100ページのたばこ・酒・薬物に手を出さないことに向けた学習内容において、様々な状況設定のもと、断るために必要な伝え方についてロールプレイングを通して考える場が設けられております。以上が、保健体育についての説明でございます。

## 松下教育長

質疑をお願いします。

## 森田委員

先ほど最後のほうで教えていただいた、各社の特徴の中で、学研さんは、たばこや酒、薬物に手を出さないとか、ページを振り返ると薬物乱用のきっかけや健康におけるリスクをできるだけ回避

するようなどころに特徴があるという認識でいいですか。ほかのところもやっているけれど、こちらがより強く打ち出しているみたいなイメージでしょうか。

#### 松下教育長

酒・たばこを比べてみましょうか。大修館が94ページです。

#### 森田委員

東京書籍さんはピンク色のところで言うと、スキルブックですかね。それ以外もありますか。

#### 松下教育長

東京書籍は、104ページですね。学研は実習があって、誘いを断るというロールプレイングのようなことが特徴というところで、ほかの2社も同じように書いているけれど、そこが違うということですか。

#### 森田委員

日常でいつあるか分からない中で、学んだことをどういかにして対処するかに強みを置いているのでしょうか。

#### 松下教育長

実際、中学生の場合は、たばこやお酒とか今でいうと薬物も低年齢化していますので、オーバードーズも含めてそういう部分で言うなら、仲間意識のために、同じ秘密を持つために、というようなことで実際に起きているわけで、それをどういうふうにするのかということを具体的に示しているのはあんまり見たことがなかったと思いました。

#### 谷委員

具体的に「みんな吸っているから」とか「1本ぐらい平気だよ」とか実際に言ってくる言葉をいっぱい出して、どう断ったらいいのかというのを5つくらい出していますよね。具体的に書いてあるところがいいですね。ほかの教科書は文的に書いてあるのだけど、具体的に書いてあるほうが中学生には分かりやすいかもしれないですね。101ページは、一番具体性があると思います。

#### 学校教育課馬詰指導主事

学研で言いますと、手前の98ページ99ページから学んだ内容をもっと広げるため、深めるためのロールプレイングになっています。

#### 森田委員

学研さんの101ページのロールプレイングはリアルな感じですよ。誘われても断るよねというふうにはなっていないで、誘いを断るのはいかに難しいか、難しいことを前提で言っているのはリアルだと思いました。

#### 谷委員

3つを比較したときに、やっぱり学研の書き方が一番生徒の心に刺さる感じがしますね。

#### 西森委員

本当にどの科目も発展していくのだなと思っていましたが、保健体育の教科書に災害のことが載っているのを発見しまして、東京書籍が78ページから載っていて、大修館が110ページ、学研が120ページに載っています。私が良くないと思ったところから言わせてもらおうと、大修館はやっぱり文字を読まされるので、読んで理解する、イメージするにはちょっと時間が掛かると思います。学研は、それなりに学習が必要だろうと思うのですが、こうやって逃げていくんですよとタイムラインとかそういうことも書かれています。東京書籍は、かなり詳しく自然災害の備えとかも書かれています。タイムラインも書かれているし、その次のページでは避難所とボランティアのことも書かれています。さらに、応急手当の話に続くということで、このページに関しては、学研と東京書籍どっちがいいのかみたいに捉えています。要は、保健体育というのは、子供の頃とかは正直よく分からない科目だったんですけど、健康であるために、元気に生き抜くためにどうあるべきかを教える科目というふうに幅が広がっているのだなと思ってます。さっきの酒とかたばこもそうですけど、そういう学習課題が身近になってきているという印象を持ちました。さっきのたばこや酒の断り方

の具体例で言うと、学研さんが良かったですね。災害に関しては、東京書籍さんが厚いですね。学研も決して悪いわけではなく、いざというときにきちっと自分の身を守ろうというふうに書かれているなどと思ったところです。学研の災害のところは、116ページから始まっていますね。東京書籍のほうは76ページから順番にきていて、災害についてのことがいろいろと書かれているのでどちらも記述としては十分あると思いました。大修館さんは、若干記述が薄いかなという気がします。東京書籍の74ページと75ページを見ていると、結局114ページとの見せ方の違いですよね。一見してこの場所がどう安全か、何が危ないかを114ページで、図で出しています。東京書籍の見せ方はいいと思うんです。これをじっくりと話し合うだけの時間が学校で取れるかどうかですよ。保健体育で犯罪被害のこととかに時間は取れていますか。なぞかけで終わっている東京書籍でいいのか。実際に使うんだったらすごくいい教科書だと思います。結論から言っている学研のようにぱっと見せてもらうのがいいのかというのは、授業のバランスもあるのかなと思います。ただ一生大事なことですよね。即戦力という意味では、学研のほうが即戦力かもしれないですね。

#### 谷委員

即戦力ですね。学研がいいと思います。

#### 松下教育長

どうでしょうか。3社ともいいところがあったのですがけれども、株式会社G a k k e nを推す声が多かったようですが、構いませんでしょうか。

#### 委員一同

————— 【異 議 な し】 —————

#### 松下教育長

それでは、保健体育は、株式会社G a k k e nで決定させていただきます。技術家庭の技術分野の説明をお願いします。

#### 学校教育課馬詰指導主事

続いて、技術・家庭科（技術分野）です。技術は、東京書籍、教育図書、開隆堂出版の3社が発行しており、3社ともが選定されております。生徒はこの教科書1冊を3年間使用いたします。

黄色の付箋のページをお開きください。情報のデジタル化について記載されているページになります。

まず、東書を御覧いただきますと、ひまわりの写真を例に挙げ、画像の解像度や色について、分かりやすく示されております。

次に、教図を御覧いただきますと、デジタル化された情報の例が情報の種類別に示されております。

開隆堂につきましては、他社よりも多く、6ページにわたってデジタル化の仕組みについて示されております。また、実験も用意されており、「絵をデジタル化してみよう」は、デジタル化についてイメージしやすい内容をなっております。

次に、各社別の特徴でございますが、各社ピンク色の付箋のページをお開きください。

まず、東書でございますが、40ページのように「テックラボ」というコーナーがいくつか設けられており、作業に必要な基礎的技能に関するポイントが写真で分かりやすく示されております。

次に、教図でございますが、東書と同じように、実習時に役立つ技能がまとめられたものが、別冊として準備されております。

次に、開隆堂でございますが、6ページからのガイダンスの内容において、身近な製品の形や材質、用いられている技術などの写真が大きく示されており、技術分野の学習を意識付け、興味・関心を持つことができる構成になっております。また、表紙をめくった折込みのページには、ドラえもんのみみつ道具から現在実現しているものについて掲載されております。以上が、技術についての説明でございます。



## 松下教育長

質疑をお願いします。

## 森田委員

先ほどの別冊もですけど、付録みたいで気になったのですが、別冊があることの重みと、開隆堂の表紙をめくった折込みのページのドラえもんのようにわくわくするようなところから技術を意味付けて興味関心に持っていくのと、どう技術の学びに入っていくかと言うと、スキルのようなものから持っていくものとドラえもん効果と言いますか、美術だと先ほどのように技能をやっていくときに小さい本があったほうがやりやすいというところがあったと思いますが、先生の声はいかがでしょうか。

## 学校教育課馬詰指導主事

資料のアシストは評価がいい部分はあるのですが、技術という教科は、中学校から始まる教科ですので入りのガイダンスがスタートとして大事です。どの先生方も大事にしている部分ではありますので、そういった御意見の中では、入りの部分での、開隆堂で言いますと、スプーンの生分解性の写真があったと思いますが、9ページのように例を用いるなど、入りのところで興味関心を持たせて技術の基礎・基本から学習していくということでは、入りのところが一番大事という意見が先生方からあります。

## 森田委員

最初は関心を持たせていくってことですね。ありがとうございます。

## 谷委員

技術の分野というのは、創造性というか想像するものづくりとか、そういう要素がすごくあります。だからスタートがドラえもんでこんなになっているのかなと思いました。

## 学校教育課馬詰指導主事

創意工夫の部分なんかは、よく見たりはします。

## 谷委員

やっぱりものづくりというすごく重要な教科ですよ。「ドラえもん」はほかのところにはないですか。ほかの教科書は何を売りにしているのですか。「ようこそ技術の世界へ」というのが東京書籍、もう一つは「技術テクノロジーを見つけよう」どちらもインパクトとしては大したことはないですね。案外こういう単純なのが引き付けるというか生徒にはいいと思います。ずっと使っていく教科書です。

## 西森委員

問題解決というのがテーマにくるのだなというのを知りました。今まで物を作るということは、自分にとって便利な物を作りたいのであって、不便があることに気が付いて、それをどういうふうにするかが技術の発展の最初の一步みたいな学習の動機というのをこの歳にして初めて知りました。問題解決のことをどのように示すかと言ったときに、きれいに読み切れていないですけども、東京書籍は、14ページを見ると、「技術は夢をかなえるためにある」という言い方をしている、16ページに「技術の最適化」とか19ページに「技術の見方・考え方」という感じで、要はその問題発見をこういうふうに探しましょうみたいな答えをすでに出してくれている感じがします。教育図書のほうは、どういうふうに示されているのでしょうか。やる動機がなかったら買ってあげればいいじゃないかとなって、いや、そこを自分でやるから面白いんだよという、そのために技術がいるよねという感じで、36ページの「完成形をイメージしよう」で、一つの例が示されていて、分かりやすいといえば分かりやすい。開隆堂は、そこの辺りをいろいろと書いていますが、すごく具体的だなと思ったのが、開隆堂の62ページとかですね。「小さなスペースで机の上を整理・整頓できるマルチラック」という素敵な物があって、「問題の発見と課題の設定」というのがこれはもう答えなのでしょうけど、「机の上に様々な種類の本や物が散乱している。自分が勉強するスペースがなく、落ち着いて勉強できる状態ではない。」っていうのが恐らく多くの子が「うん」と思うようなこと

をまず設定しておいて、そこに願いや要求でこうしたいというのが書かれていて、そこから構想を  
発展させていこうみたいなことが書かれているのですよね。こういう、変な話、物に自分を合わせる  
のではなくて、自分のこうしたいというのをまず出して、それをエネルギーにやったらいいとい  
うような、こういう引っ張って行き方は、何に取り組む上でも大事ではないかと思っています。マ  
ルチラックの次は、「家族で使える充電しやすいタブレットスタンド」という複合的な要求をどう  
やって満たしていくかみたいになっていて、次のページは「小さい子でも使いやすい踏み台」とか  
ありますね。こういうのをこれでもかと思しながらいきなり身近なところで不便を我慢しなくてもいいよ、  
自分たちで何とかしてみようという、こういう元気付けてくれる技術の教科書になっていますので、  
開隆堂いいなと思いました。

#### 松下教育長

技術分野は、開隆堂がいいという御意見がありますが、構いませんでしょうか。

#### 委員一同

【異議なし】

#### 松下教育長

技術分野は、開隆堂に決定いたします。

次に、技術・家庭（家庭分野）ですが、前回の7月定例会において「市教委第27号「令和7年度  
使用高知地区教科用図書採択について」」でお諮りし、御承認いただきましたとおり、技術・家庭  
（家庭分野）の審議につきましては、森田委員に御退席いただくこととなっております。恐れ入  
りますが、森田委員、御退席をお願いいたします。

（森田委員退室）

#### 松下教育長

家庭科分野の説明をお願いします。

#### 学校教育課馬詰指導主事

続いて、技術・家庭科（家庭分野）です。家庭科は、東京書籍、教育図書、開隆堂出版の3社が  
発行しており、3社ともが選定されております。生徒はこの教科書1冊を3年間使用いたします。

黄色の付箋のページをお開きください。消費生活におけるいろいろな支払方法についての学習内  
容のページになります。各社とも前払い、即時払い、後払いと触れたのちキャッシュレス化につ  
いても、掲載されております。

東書につきましては、それぞれの支払い方法の特徴が表の中に示されており、それぞれの支払い  
のメリットとデメリットを学習できます。

教図につきましては、多様化するキャッシュレス決済の種類について写真付きで紹介されてお  
ります。

次に、開隆堂につきましては、電子マネーの利用金額の推移を表したグラフが掲載されていると  
ともに、キャッシュレス化によるトラブルなどのデメリットについても説明されており、お金を管  
理する上で大切なことを生徒に考えさせる問いも準備されております。

次に、各社別の特徴でございますが、各社ピンク色の付箋のページをお開きください。

まず、東書でございますが、巻末286ページに防災・減災など災害への備えに関することや、身  
の回りにユニバーサルデザインがいかされた実例の資料など、発展資料が多く準備されております。

次に、教図でございますが、巻末に献立を記録する食材シールが93ページのワーク用として準備  
されており、生徒が意欲的に学習に向かう工夫がされております。

次に、開隆堂でございますが、292ページに学習内容をいかして生活の課題と実践を考えるペ  
ージが設けられており、身の回りの疑問や自身の生活への実践意欲につながるイラストが大きく掲載

されております。また、課題や実践に関連するページが記載されているので、生徒が学習を振り返りやすくなる工夫がされております。以上が、家庭についての説明でございます。

#### 松下教育長

質疑をお願いします。

#### 西森委員

家庭科の教科書もさっきのいろいろ出てきたものと同じように、自立したときにそのまま持っておける本になっていると思います。洗濯の話も載っていて、東京書籍の130ページ辺りから「衣服の洗濯と保管」というのがあって、洗剤のこととかいろいろ書かれています。そのあとアイロンがけのことまで136ページに載っています。私もこの教科書が欲しいくらいです。教育図書の166ページは同じく「衣服の手入れをしよう」、前のページの衣服を手に入れるところからスタートしていろいろ書かれています。やはり同じく欲しいくらいです。ただ、アイロンがけの170ページと東京書籍の136ページの比較をすると、ここにおいては、やや東京書籍のほうに分があるような感じがします。開隆堂については、アイロンがけのページが190ページにあります。このページは染み抜きとかが具体的に書かれていて、「やってみよう」のページは、本当に今晚から使えるようなページになっています。アイロンがけは197ページにあります。私は見せ方だと思います。全部載っているの、丁寧に腕の辺りとかどういうふうにやるのかというのがある程度きれいに載っているし、ボタンのつけ方も載っている。ほかにも全部載っているのでしょうけれど、開隆堂は特に見やすいです。

#### 松下教育長

「あなたはどうしましたか。」から始まってこういうふうの流れっていくという形ですよ。見せ方のところですね。洗濯するとき洗剤の使用料は何を目安に決めていますかとか、そこから始まるという。

#### 西森委員

社会人まで持っていきたい教科書だというふうに感じました。

#### 松下教育長

「新たな衣服が必要となったときどのような方法で入手しますか。」こういうのも問いかけの形になっている。先ほど事務局からあったことを含めても、そういう方向性があるかと思います。

#### 西森委員

教育図書の156ページにTPOみたいなことが書かれていて、開隆堂が185ページにそれこそとてもすてきな写真で、これだけ着分けることができるのだよというようなことが書かれています。東京書籍の119ページにもあります。やっぱり衣服をいついかなるとき、どのようなものを着るべきなのかというのは分かっているようで分かっていなかったりするのですが、そういう意味で開隆堂は見せ方がいいなと思いました。

#### 松下教育長

「慣習に従って気持ちを表す。自分らしさ個性を表す。」とありますね。

#### 西森委員

そこをよく考えたらTPOとして頭の整理はしやすいですよ。

#### 谷委員

写真もすごくきれいですね。

#### 松下教育長

開隆堂を推す声が大きいです、構いませんでしょうか。

#### 委員一同

————— 【異議なし】 —————

## 松下教育長

それでは技術・家庭の家庭分野は、開隆堂と決定いたします。それでは次の英語に移る前に、森田委員に入室していただきます。

(森田委員入室)

## 松下教育長

続いて、英語の説明をお願いします。

### 学校教育課馬詰指導主事

続いて、英語です。英語は、6社のうち、東京書籍、開隆堂出版、光村図書出版の3社が選定されております。

まず、オレンジの付箋が付いたページをお開きください。3社とも目次のページとなっております。1年間の単元の目次には学習の見通しを持たせるために単元ごとに学習する内容の文法が示されております。また、内容についても、3社とも小学校の学習を振り返った上で中学校の内容に近づけており、1年間を通して、5領域の内容が偏ることなく学習できるようになっております。

まずは、東書を御覧ください。3つのステージに分け、そのステージの学習内容を活用して資質・能力を育むことにつながる、「Stage Activity」が準備されております。

開隆堂を御覧いただきますと、3つから4つのユニットごとに「Our Project」が準備され、学習のまとめができるようになっております。

光村を御覧いただきますと、「You Can Do It!」では設定された目的・場面・状況に対して、学習したことを活用する場につながっております。

次に、各社別の特徴でございますが、各社ピンク色の付箋のページをお開きください。

東書を御覧ください。こちらの「Small Talk」は、中学生が話したくなるようなテーマにおいて、質問と表現の例が紹介されており、デジタル教材においても練習用コンテンツが用意され、即興力を育成するための様々な仕掛けがされています。

次に、開隆堂を御覧いただきますと、考えをまとめる際のマッピングの活用例が紹介されており、「Our Project」の活動にスムーズに取り組めるような仕組みになっております。

光村につきましては、各学年の付録として「英語の学び方ガイド」が設けられており、生徒からよく尋ねられるような質問を中心に、領域別の学び方や活動への取り組み方が分かりやすく紹介されております。以上が、英語についての説明でございます。

## 松下教育長

質疑をお願いいたします。

### 森田委員

意見ですが、東京書籍さんの特徴としてある、「即興で伝え合おう」というのは、非常に大事なことだと思います。話をしようと思っても黙っていると会話は続きませんから、とにかく何でもいから自分の言葉を総動員して伝えるということを単なる受験勉強ではなくて、学習するということはとても大事だと思います。ただ一方で、これはやっていくと訓練になって慣れてくるところもあるので、そうすると開隆堂さんの44ページのように、喋るときにこうやって構成を立てて、それをどうやって英語でやっていくかというのと、こっちの「Small Talk」とも悩むところなのですが、小学校だと東京書籍さんも大事だと思うのですが、小学校でこれを少しやっていると、中学校では開隆堂さんのほうで訓練していくほうが、スピーチもうまくいくのかなと思いました。現場の先生はどんな感じで考えていますでしょうか。

## 松下教育長

お声が聞こえてきておりましたらお願いします。

## 学校教育課馬詰指導主事

特にありません。

## 森田委員

必要に迫られると、即興でしないといけなくなるというふうに思ったところです。

## 西森委員

まず、印象に思ったのが私たちの時代の中1の教科書とは違う、なぜなら小学校があるからです。びっくりして、これ本当に1年生なのかと思って見させていただきました。

開隆堂のサンシャインは、とはいえ難しくないですか。教科書を開くと英語がいっぱいあって、中学生はついていけていますか。結構びっくりしました。ちょっと英語が多すぎると思いました。私は一見してレベルが高すぎるという印象を持ってしまいました。今の中学生はこれが標準ですと言われれば、そうですかという感じですが。開隆堂の例えば83ページには、まずリスンがあって聞いて、それぞれの地域やものを選びましょうとあって、中学生たちは聞き取れるのでしょうか、次に、例に倣い自分の住む地域について伝え合いましょうということで、「Where」とか「Do you know」とかを使って、構文を使ってやるという感じなのですね。ほかの教科書でも同じようなことをやるのでしょうかけれども、東京書籍は、やっぱり写真とか絵があってすごく分かりやすそうだとは思っていて、さっきの開隆堂は会話をみんなでこうやって喋ってみてという感じにやるのかなと思いました。東京書籍は、生徒にどういう仕掛けをして、じゃあみんなやってみてというのは、例えばどの辺りのページを見たらそのことがありますか。さっきの開隆堂にしても東京書籍にしても、教員が結構面倒を見ないといけないのかなと。東京書籍は、とっさに開いてみた77ページで言うと下線があって、適切な語を入れましょうというように、昔ながらの問題集みたいな雰囲気があります。でも、今の時代はそうじゃないよねっていう感じもしています。

光村の「Here we go!」というのは、知らなかったタイプですけど、とっさに開いた87ページで言うと、「ペアになり、お互いにインタビューをして友達の情報を集めましょう」「Do you read book?」「Do you cook breakfast every morning?」というような感じで、これはもう下線部さえ入れ替えれば喋れるということなのですね。何となくこのページをぱっと見た感じで言うと、クラスの中で話が盛り上がるようにという意識付けが、多分この教科書にあるのだろうというのが「Here We Go!」に対する印象です。形が正方形に近くて扱いやすい、ぱっと開いて子供たちがこういう感じで見ることができそうな気がします。東京書籍は、できないことはないけど置いて見ないといけないという感じがして、光村は片手で持ちながら、向き合って顔を見ながらやっている「Here we go!」イメージがあります。「Here we go!」から出てくるイメージですけれども、喋らせようとする教科書かなという印象は持ちました。以上です。

## 学校教育課林保指導主事

教科書の大きさについては、実際に生徒からも教科書が大きいというのを結構耳にしているところですね。このサイズ感は今まであまりなかったもので、教科書を持ってコミュニケーション活動をする場面がたくさんあるので、このサイズは新しいと思います。

## 西森委員

そうですね。教科書片手に持ってコミュニケーションする教科というのは、英語ほどにはほかにはないですね。

## 学校教育課林保指導主事

英語は持ちながら授業をすることが本当に多いです。今は大きいのが定番にはなっているのですが、大きいというのは先生たちからも聞きます。

## 松下教育長

そういう意味で言うとサイズとしては、小さいのですけれども小さいから見にくいとか、小さいから削っているとかそういうふうには見えなと思います。見開きを見てもほかと同じようで、サイズが小さいから特にぎゅっと詰まっているような感じはないと思いました。

## 西森委員

それこそ東京書籍はさっきの理科ではないですけども、ちょっと中途半端に写真がきれいすぎるというか、ここまで大きい写真で子供を引き付ける必要がここまでないのかなと思います。それよりむしろ、手に持ってこういう感じで会話するためのツールとして使うべきものなのかなという感じで、設計思想が違うのかなと思いました。東京書籍に切り替えたときに連続性で問題が発生しないのかなとは思いますが。今まで馴染んだ教科書で1年生が2年生に上がってこれに変わるという話になったときに、現場の方たちや子供たちはどう捉えるのでしょうかということが気になると思いますけど、その辺りいかがですか。

## 学校教育課林保指導主事

聞こえてくる声ですけども、確かに小学校からのつながりというところでは、東京書籍のほうが見え方や形で馴染みがあるというのは、一つ利点ではあるかと思いますが、今現在聞こえてくる声としては、題材が扱いにくいという声がよく現場の先生から聞こえてきておりますので、確かに連続性のある同じ会社でというのはあるのですけれども、それよりも実際に使ってみて扱いにくい部分があるというのは聞こえてきます。

## 学校教育課入江班長

教科書が切り替わる時は、英語に限らずどうしてもどの教科でも当然先生方の負荷は掛かるかと思えます。しかし、教育方針の中でやはり子供たちにより良い教科書を選ぶ際には、内容重視ということで負荷については、御了承の上でという前提で、子供にとってより良い教科書を届けることを狙いでやっています。

## 森田委員

見ていて思ったのですが、こちらの光村さんは文章が後にあります。最初から文章があると長いぞとなってしまうのですが会話から始まっています。逆説的ですけど、英語がすぐ出てこないというか、この人何が好きなのかそういうところから段々と文章が出てくるような仕組みかなと感じます。英語がすぐにたくさん出てこないのが特徴で、見ていていいなと思いました。英語があると嫌だというか、伝えられるのが楽しいとかこの子のことを分かるのが楽しいとか、そういうところをつかめば最終的に文章も読めるのかなと思った次第です。

## 松下教育長

連続性の部分も先ほど御説明ありましたが、光村図書が優れているのではないかという御意見だったと思いますが、構いませんでしょうか。

## 委員一同

【異議なし】

## 松下教育長

それでは、英語については、光村図書で決定いたします。次に、道徳の説明をお願いいたします。

## 学校教育課馬詰指導主事

続いて、特別の教科道徳です。道徳は、7社のうち、東京書籍、光村図書出版、株式会社G a k k e nの3社が選定されております。

まず、オレンジ色の付箋が付いたページをお開きください。各社目次のページとなっております。3社とも様々なテーマで学習できるように教材が準備され、内容も偏ることなく掲載されています。

東書につきましては、「いのち」と「いじめ」をテーマにユニットとしてそれぞれ3つの教材をひとまとまりとして掲載されています。また、35時間分の教材のほかにも4つの教材が準備され、生徒の実態に応じて教材を選択することができるようになっております。

光村につきましては、「いじめ」や「情報モラル」など様々なテーマのもと、ユニット学習ができるような構成になっております。また、5つの付録教材が準備されております。

次に、学研につきましては、「SDGs」と「多様性」、キャリアをテーマにユニット学習ができるようになっております。

次に、各社別の特徴でございますが、ピンク色の付箋のページをお開きください。

東書を御覧いただきますと、道徳で学習したことを、広げたり、深めたりすることができるように、コラム「Plus」が掲載されております。

次に、光村でございますが、「道徳 道案内」において、いくつかの教材を関連付けながら学習が深められるよう構成されております。また、巻末に1時間ごとの振り返りができるシートが準備されております。

学研につきましては、巻末に、学習を振り返り、数年後の自分へのメッセージを書くページがあり、自己の見つめ直しと未来への展望につなげております。以上が、道徳科についての説明でございます。

#### **松下教育長**

質疑をお願いいたします。

#### **松下教育長**

学研のところで言われた巻末の「未来への扉」など、ほかのところもそうですけど、「学びの記録」とかそういうようなところが全部の教科書に共通していると思います。そういう部分は道徳が大事にしている部分で、それをワークシートとして別で構えるのではなくて、教科書の中にそのまま入っているというところが、ほかの教科とは違うところかと思うのですが、そういったところで聞こえている声があれば教えてください。

#### **学校教育課馬詰指導主事**

この1ページに「未来への扉」として書き留めておけるのは1つの特徴として御意見をいただいております。

#### **森田委員**

東京書籍さんのピンクの付箋で、特徴として挙げられている「Plus いじめの構造」のところは、ほかと比べると、ほかの項目と関係付けるために有効な役割を果たしている、ほかはそれぞれ項目が分かれているものをつなげる「読みもの」としてという感じですかね。この28ページのこれを授業で扱うことで、ほかでやっていたものにつながっていく感じになるのですか。読んでつなげようと思っているのか、授業で扱ってつなげていこうとしているものなのかと思ったのですがどうでしょうか。1ページしかないとはいえ、大事だと思いましたがどうでしょうか。

#### **学校教育課馬詰指導主事**

いくつか随所に「Plus」というコラムはあるのですけれども、教材を深く考えて広く考えてというところが売りのところになるのかなと思います。

#### **森田委員**

適宜使っていくということですね。

#### **学校教育課馬詰指導主事**

1時間の教材の後でということですね。この教材があって、その次にさらに広げてということですね。

#### **森田委員**

解説みたいなものがあるって、理解を深めようというふうに見受けられました。文章としては、例えば東京書籍さんの25ページの「傍観者でいいのか」というのは、ストーリーとして読むのですけれども、その後解説や実際に社会で起こっていることにどうつなげていくのかというイメージを持ちました。

## 学校教育課入江班長

目次を見ていただいたら、年間35時間分のコマがあります。その中に1個プラスという形が入っておりまして、年35時間が標準授業時間として定められているのですけれども、プラスアルファの分で少し時数が取れます。そこで現代的な課題として、いじめとかが日本の子供の教育の中で課題として挙げられているものをより深く入るというイメージで、前やってからプラス1時間という形でより深く考え議論する道德に関わる中で1時間を使うことが多いです。

## 西森委員

道德という科目ができるときに、思想の押し付けにならないかというふうなことがひどく議論されたというような覚えがあります。これは結論から言うと、東京書籍はそこが結構フラットだなと思っています。東京書籍1年生の4ページに「道德科の時間は自分自身の心を見つめ、人間としての生きたかを考える時間です。生き方は人それぞれ違います。正しい答えを見つける時間ではありません」といって、「気づく、考える、深める、広げる」と書かれていて、1ページ戻ったところに1年間学ぶこととして、「4つの大きな視点で人間としての生き方を考えよう」というふうなテーマが設定されています。学習指導要領がどうなっているのか分からないのですけれども、光村図書は、1年生から3年生の6ページ辺りに多分それが触れられていて、見開き全部同じじゃないかなと思うのですけれども、「道德はより良い生き方を考える時間です。家族や友達と考えを深めていきましょう。」とあって、答えは一つではないと書いてあるもののやっぱりより良い生き方というものを推して、正解という言葉を使わなくとも正解があるような感じがするのですよね。もう一つの学研は、これも同じく8ページで1年から3年まで同じようなことが書かれており、「考える方法はいろいろ」ということですが、戻って6ページの目次の打ち方があって「よりよく生きるための22のカギ」となにか今時の感じになっていて、「自分をよく見つめて生きればより良く生きられますよ」「人と支えあえばより良く生きられますよ」というふうに一見するとそういう構成になっています。学研の作りは、誤解を招くというか、人を道德である一定の方向に導こうとしている気がします。東京書籍のほうは、すごく慎重なスタンスでいる感じがします。「良い」、「正解がある」ということをかなり避けて、気を遣って、正しい答えを見つける時間ではないし、あくまで視点を示しているだけであって、その中で考えてくださいという形のスタンスで原点に立ち返ったときに、当時論点だったものをすごく大事にしているというイメージを持ちました。

## 松下教育長

これが一番大事なところですね。道德で国の価値観を押し付けるとか教師の価値観を押し付けるとか、これがいいのだとかそういうものからできるだけフラットにすることが大事ですね。

## 西森委員

何か困っている人がいたら助けてあげましょうというのは多くの場合は正しいことですが、そこで思考停止してみんなで助け合いしていればいいというもんでもないということ、すごく大事にしている感じがします。

## 松下教育長

いかがでしょうか。構いませんでしょうか。そしたら今考え方のところがありましたので、道德は、東京書籍に決定してよろしいでしょうか。

## 委員一同

【異議なし】

## 松下教育長

以上で、一通り採択が終わりましたので、最後に確認させていただきます。

国語は光村図書、書写は光村図書、社会地理的分野は帝国書院、社会歴史的分野は教育出版、社会公民的分野は教育出版、地図は帝国書院、数学は東京書籍、理科は東京書籍、音楽一般は教育芸術社、音楽器楽合奏は教育芸術社、美術は光村図書、保健体育は株式会社G a k k e n、技術・家



庭の技術分野は開隆堂，技術・家庭の家庭分野も開隆堂，英語は光村図書，道徳は東京書籍で間違いありませんでしょうか。

それではこの内容で決定いたしましたので，よろしく願いいたします。

秘密会を解きます。

以上で，本日の議事日程は全て終了いたしました。これで教育委員会を閉会いたします。

閉会 午後6時30分

署 名

教育長 \_\_\_\_\_

2番委員 \_\_\_\_\_